

地震・津波に関する意識調査

集 計 結 果

平成23年9月

危機管理部総合防災課

目 次

第1章	調査概要	・ ・ ・ ・	1
第2章	集計結果	・ ・ ・ ・	5
第3章	分析の概要	・ ・ ・ ・	46
第4章	まとめ	・ ・ ・ ・	49
別紙	意識調査票		

第1章 意識調査概要

1 意識調査（アンケート）の目的

平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震により大津波警報が発表され、和歌山市においても大津波警報にもとづき「避難勧告」が発令された。その際の避難等の実態について津波避難対象地域の住民にアンケートを実施し、市民の対応を検証するとともに、あわせて避難情報の伝達方法や避難所の設置運営等について調査し、今後の地震津波発生時における迅速な避難等、津波被害に対する防災力の向上に資することを目的とする。

2 気象概況

(1) 地震の規模・震源等

発生日時 平成23年3月11日（金）14時46分

マグニチュード 9.0

場所及び深さ 三陸沖 深さ24km

(2) 気象予警報の発表状況（和歌山県）

平成23年3月11日14:49 津波注意報

平成23年3月11日15:30 津波警報

平成23年3月11日16:08 大津波警報

平成23年3月12日13:50 津波警報に切替え

平成23年3月12日20:20 津波注意報に切替え

平成23年3月13日17:58 津波注意報解除

(3) 避難勧告の発令

平成23年3月11日（金）16:13 和歌山市避難勧告発令

(4) 津波の概況

和歌山市 第一波 平成23年3月11日17:13 0.6m

最大波 平成23年3月11日19:35 0.7m

3 意識調査（アンケート）実施方法

(1) 対象地域：和歌山市地域防災計画に示された津波避難対象地域

(2) 調査世帯数：1,000世帯

津波避難対象地域の各地区毎世帯数の割合に応じて無作為抽出

(3) 調査期間 平成23年5月8日～5月15日まで

(4) 調査方法 郵送によりアンケート票を配布、郵送により回収

4 意識調査項目（アンケート）の体系

実施したアンケートの質問事項については、以下の体系により設定している。



5 意識調査におけるアンケート回収率

(1) アンケート回収率

アンケート回収率 58%

地 区	発 送	回 収	男 女 別 回 収 率	性別 不明	男 女 合 計		回収率	
					回 収	発 送		
雄 湊	男	7	5	男 70%		9	15	合計 60%
	女	8	4	女 50%				
砂 山	男	24	11	男 46%		30	43	合計 70%
	女	19	19	女 100%				
高 松	男	12	6	男 50%		18	24	合計 75%
	女	12	12	女 100%				
宮 前	男	48	29	男 60%		58	110	合計 54%
	女	62	29	女 46%				
湊	男	20	5	男 25%		18	40	合計 45%
	女	20	13	女 65%				
野 崎	男	23	10	男 43%	1	28	40	合計 70%
	女	17	17	女 100%				
貴 志	男	18	9	男 50%		21	36	合計 58%
	女	18	12	女 67%				
雑 賀	男	94	34	男 36%	1	87	160	合計 51%
	女	66	52	女 79%				
和 歌 浦	男	99	39	男 39%		98	170	合計 57%
	女	71	59	女 82%				
名 草	男	179	77	男 43%	8	205	362	合計 57%
	女	183	120	女 65%				
不明	回収	—	—	—	5	5	—	—
合計	男	475	225	男 47%	15	577	1000	合計 58%
	女	525	337	女 64%				

(2) 年齢別（男女別）回収率

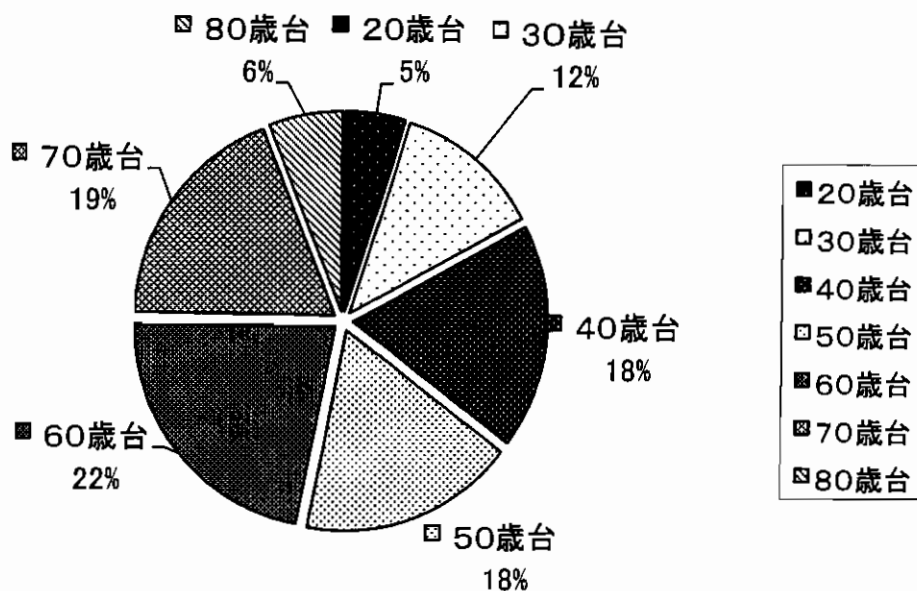
年 齢	男 女 別 回 収 率				年 齢 別 回 収 率			
	性別	発送	回収	回収率	男女不明	回収合計	発送合計	回収率
20代	男	68	14	21%		28	118	24%
	女	50	14	28%				
30代	男	79	23	29%		70	164	43%
	女	85	47	55%				
40代	男	69	36	52%	1	104	155	67%
	女	86	67	78%				
50代	男	90	46	51%	2	101	165	61%
	女	75	53	71%				
60代	男	74	43	58%	4	127	184	69%
	女	110	80	73%				
70代	男	71	48	68%	1	107	153	70%
	女	82	58	71%				
80代	男	25	15	60%	2	34	64	57%
	女	35	17	49%				
90代	女	1	0	0		0	1	0
年齢性別不明 5名								

第2章 集計結果

1 回答者の属性 (問26)

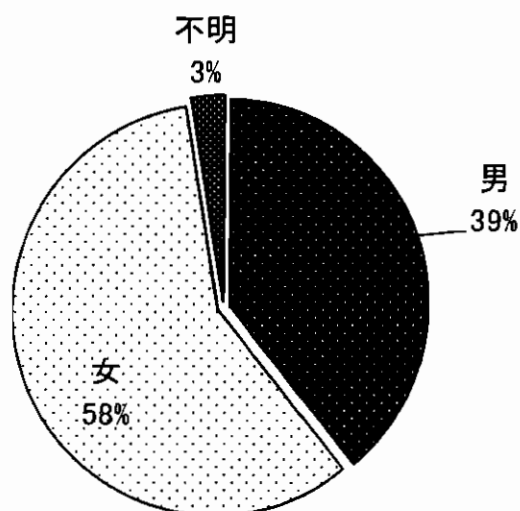
年齢構成

回答者の年齢構成については、80歳、20歳台5%前後、30歳台が12%
40歳から70歳台にかけては20%前後であった。



男女比率

男女比率は4対6の割合で女性の回答者が多かった。



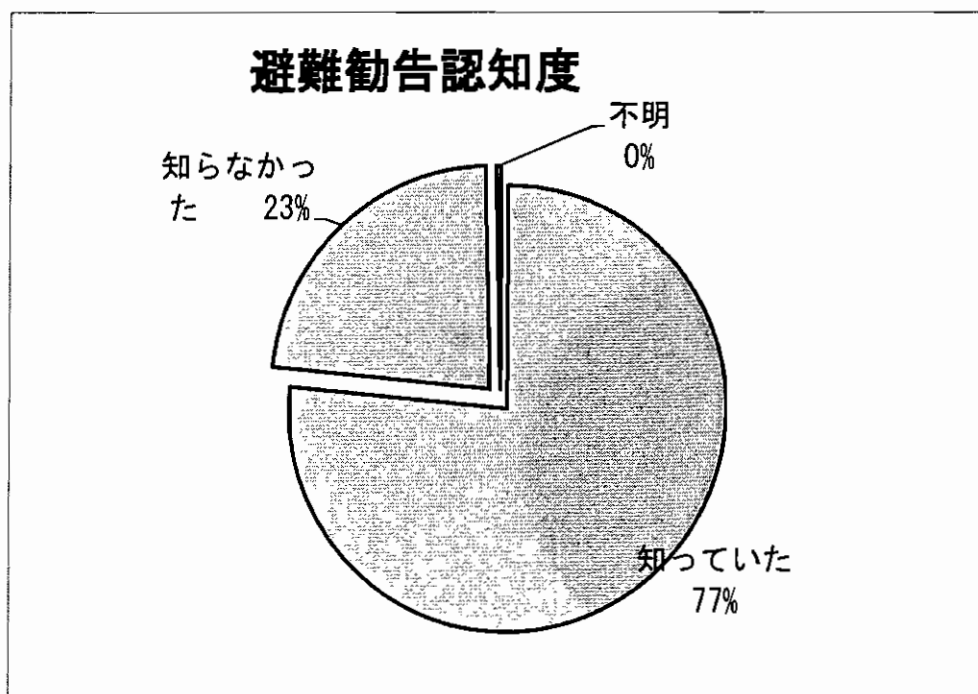
2 各設問の回答結果

【問1 避難勧告の認知度】

回答者全体のうち「避難勧告」の発令を知っていた市民は全体で442名（77%）であった。

地区別では和歌浦地区が88%と高く、湊、野崎および宮前地区が60%台であった。

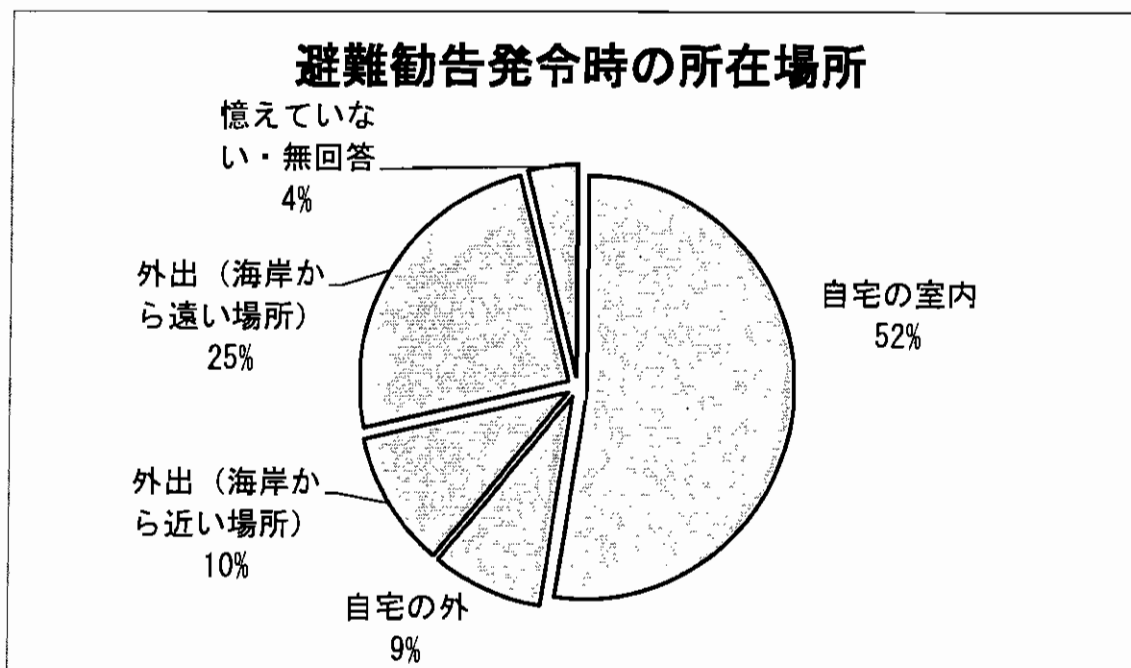
地区	知っていた	知らない	総計	認知割合
雄湊	7	2	9	78%
砂山	23	7	37	81%
湊	14	4	16	63%
高松	15	3	18	78%
野崎	17	10	27	66%
貴志	18	3	21	76%
宮前	39	19	58	62%
雑賀	70	17	87	78%
和歌浦	79	18	96	88%
名草	156	48	204	77%
不明	4	2	6	—
無回答	2			
対象地区合計	442	133	577	77%



【問2 避難勧告が発令されたときどこにいましたか】

問1で「避難勧告を知っていた」と回答した人のうち、自宅近傍または海岸近く（避難対象地域内）に所在していた市民（避難の対象となる市民）は315名（71%）であった。

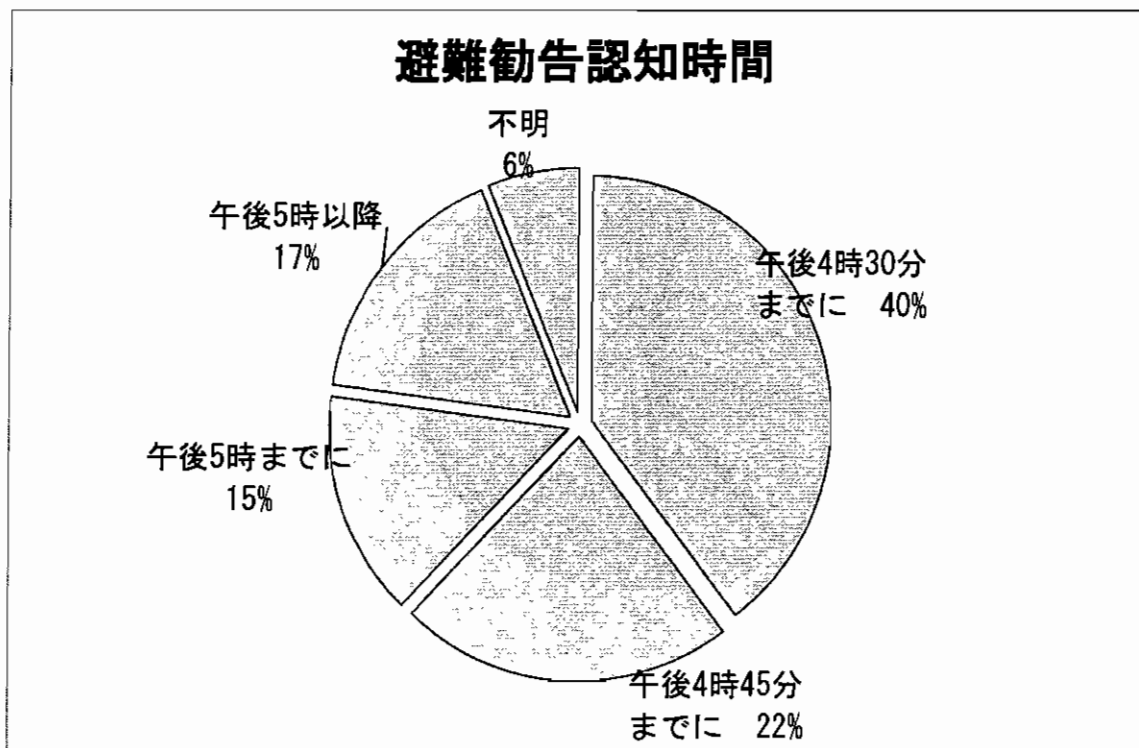
場 所	人 数	合 計	比 率
自宅の室内	230	442	52%
自宅の外	39		9%
外出（海岸近く）	46		10%
外出（海岸から遠く）	109		25%
不明・無回答	18		4%



【問3 避難勧告を知ったのは何時頃（発令午後4時13分）】

問1で「避難勧告を知っていた」と回答した人のうち、175名（40%）の人が発令後30分以内に認知していた。しかしながら、津波の第一波が到達した午後5時13分前後（「午後5時以降」）に認知した市民も74名（17%）であった。

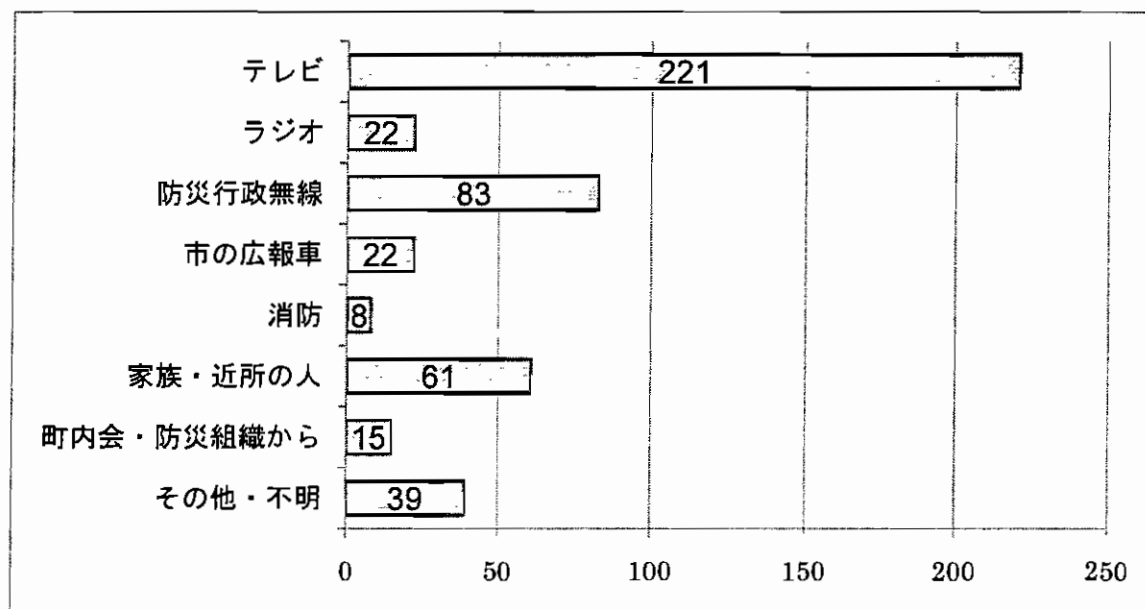
認知時間	人数	勧告認知者数	比率
午後4時30分頃までに	175	442	40%
午後4時45分頃までに	99		22%
午後5時頃までに	66		15%
午後5時以降	74		17%
不明	28		6%



【問4 避難勧告を知った手段（媒体）は】（複数回答）

問1で「避難勧告を知っていた」と回答した人のうち、テレビ・ラジオで知った人が243名であった。市の伝達手段である防災行政無線、広報車等によって認知した人は113名であった。

認知手段	人数	勧告認知者数
テレビから	221	442
ラジオから	22	
防災行政無線から	83	
市の広報車から	22	
消防から	8	
家族・近所の人から	61	
町内会・自主防災組織から	15	
その他・不明（※ 別記）	39	



※ 別記

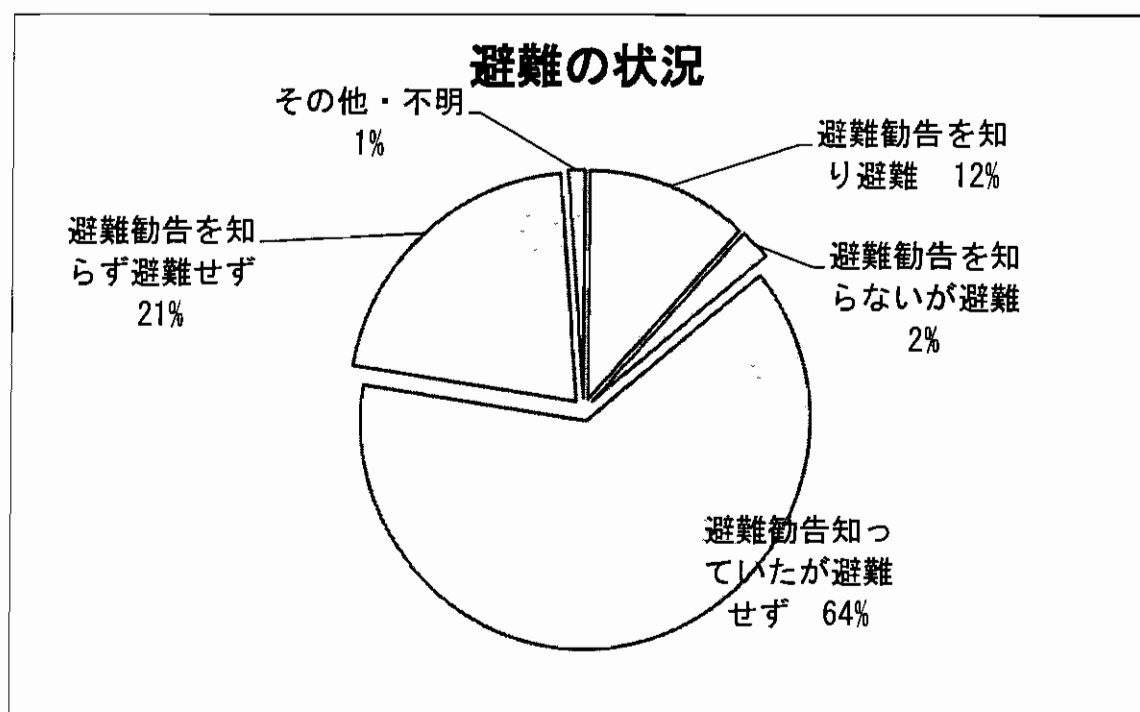
（その他）

- 町内放送 雑賀小学校校内放送
- 会社（職場）からの連絡（放送、同僚、メール等）により知った
- 妻の電話、近所の人、近くにいた人、友達知人からの電話、子供からの電話から
- 小学校の学童保育の先生から、警察の人から
- 海南市防災センターの放送（名草）
- 防災わかやまのメール・家に帰ってから、インターネットから

【問5 地震発生後の行動（避難勧告後）の行動】

回答者全体のうち「避難した市民」（指定場所や、高台、親戚等）は約14%、避難しなかった市民が86%であった。特に、「避難勧告を知らず避難しなかった」市民は64%であった。

地震発生後の行動	回答数	総数	割合	避難割合
避難勧告を知り避難した	69	577	12%	14%
避難勧告を知らなかったが避難した	12		2%	
避難勧告を知っていたが避難しなかった	366		64%	86%
避難勧告を知らず避難しなかった	123		21%	
未回答・不明	7		1%	



居住地区別避難者数（カッコ内は地区毎の避難した人の割合）

雄湊3名（33%）、砂山5名（17%）、湊3名（17%）、高松4名（22%）、野崎3名（11%）、貴志2名（10%）、宮前2名（3%）、雑賀12名（14%）和歌浦22名（23%）、名草25名（12%）となっている。

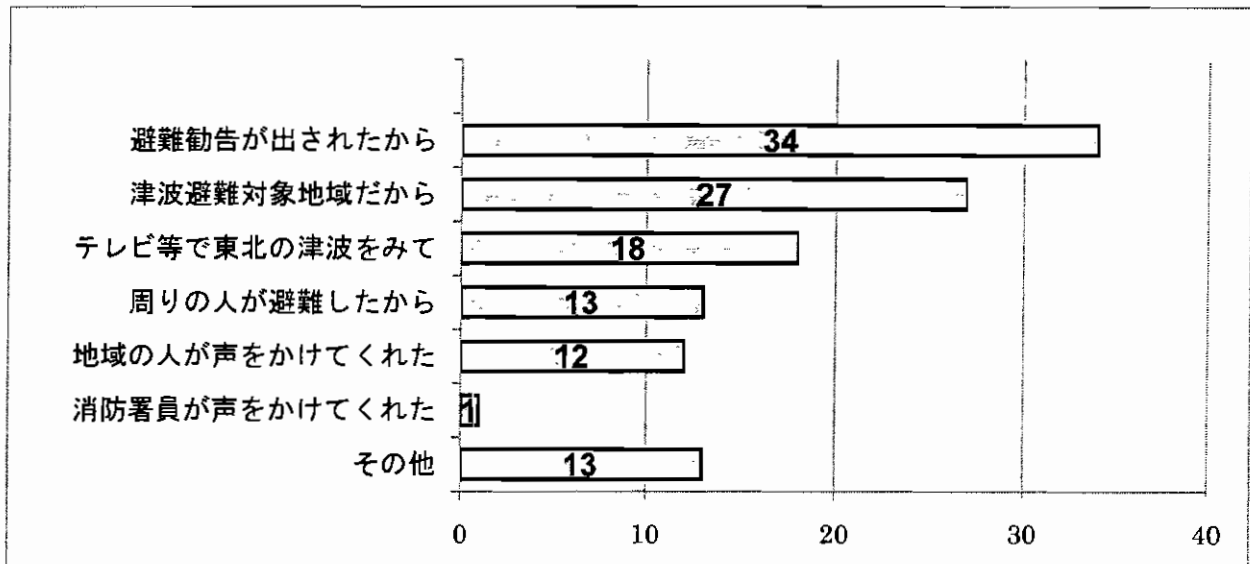
問6 避難したきっかけ（複数回答）

問5で「避難した市民」の中で「避難勧告」が出されたことにより避難した市民は34名であった。

なお、「避難勧告が出されたから」と回答した市民34名のうち

- 「避難勧告」だけで避難した市民は13名
- 「避難勧告」かつその他の要因（「避難対象地域にあった」、「テレビで東北の状況を見て」等）を選定した市民は21名であった。

避難したきっかけ	回答数	避難者総数
避難勧告が出されたから	34	81
津波避難対象地域にあったから	27	
テレビで東北の津波の状況を見て	18	
周りの人が避難したから	13	
地域の人が声をかけてくれた	12	
消防署員が声をかけてくれた	1	
その他（※ 別記）	13	



※ 別記

（その他）

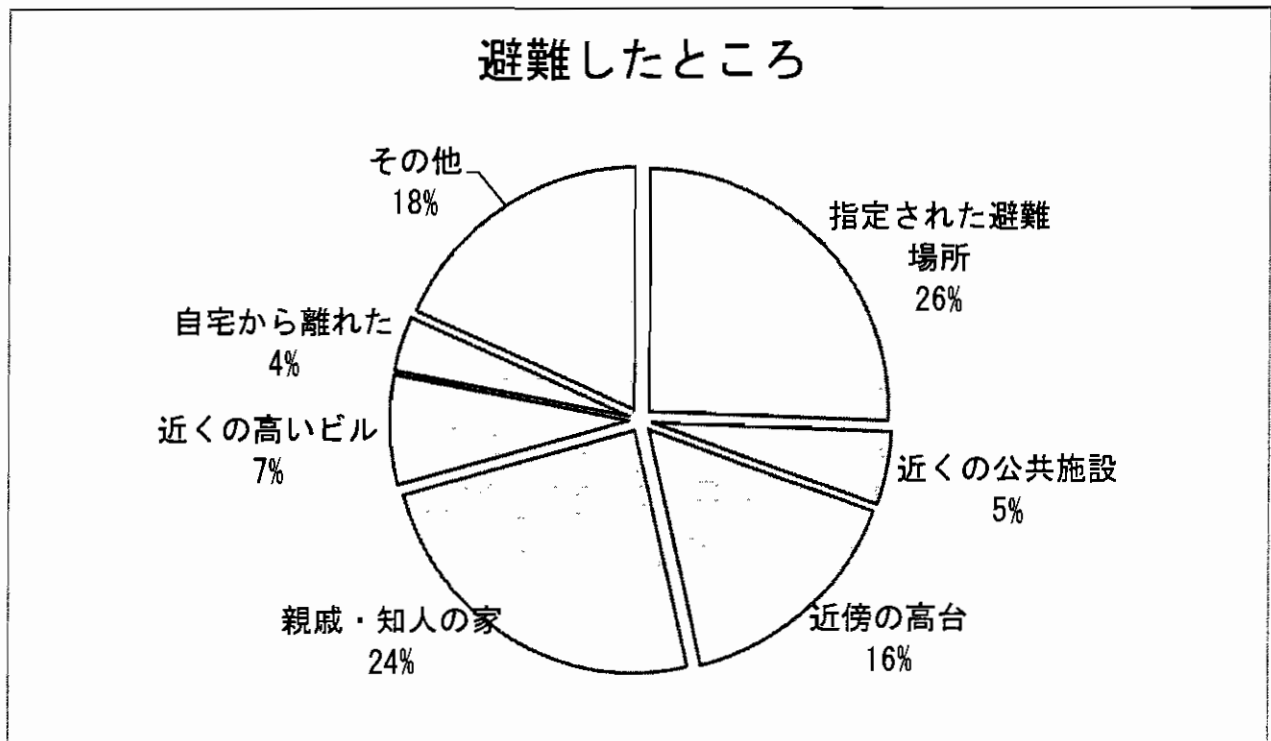
- 上司の指示・会社からの命令・会社の規定で避難した
- 職場で2階以上にあがるように指示があったから
- 家の海拔が低いから・家が海岸の近くにあるから
- 実家の親が強く勧めたため、住んでいる地域が決して安全ではないから
- 自主避難 班長だったので自分も声をかけて避難するように呼びかけた
- 息子より連絡があり避難した・子供が避難する旨連絡あり

問7 どこに避難しましたか

問5で「避難した市民」のうち「指定避難場所」に避難した市民が21名（26%）、一方で「親戚・知人宅」など「指定場所」以外へ避難した市民が60名（74%）であった。

指定避難場所以外では、「親戚・知人宅」20名（24%）「近傍の高台」13名（16%）であった。

避難した所	避難者数	割合
指定避難場所	21	26%
津波避難ビル	0	0
近傍の公共施設	4	5%
近傍の高台	13	16%
親戚・知人宅	20	24%
近傍の高いビル	6	7%
自宅から離れた	2	4%
その他（※別記）	15	18%



※ 別記

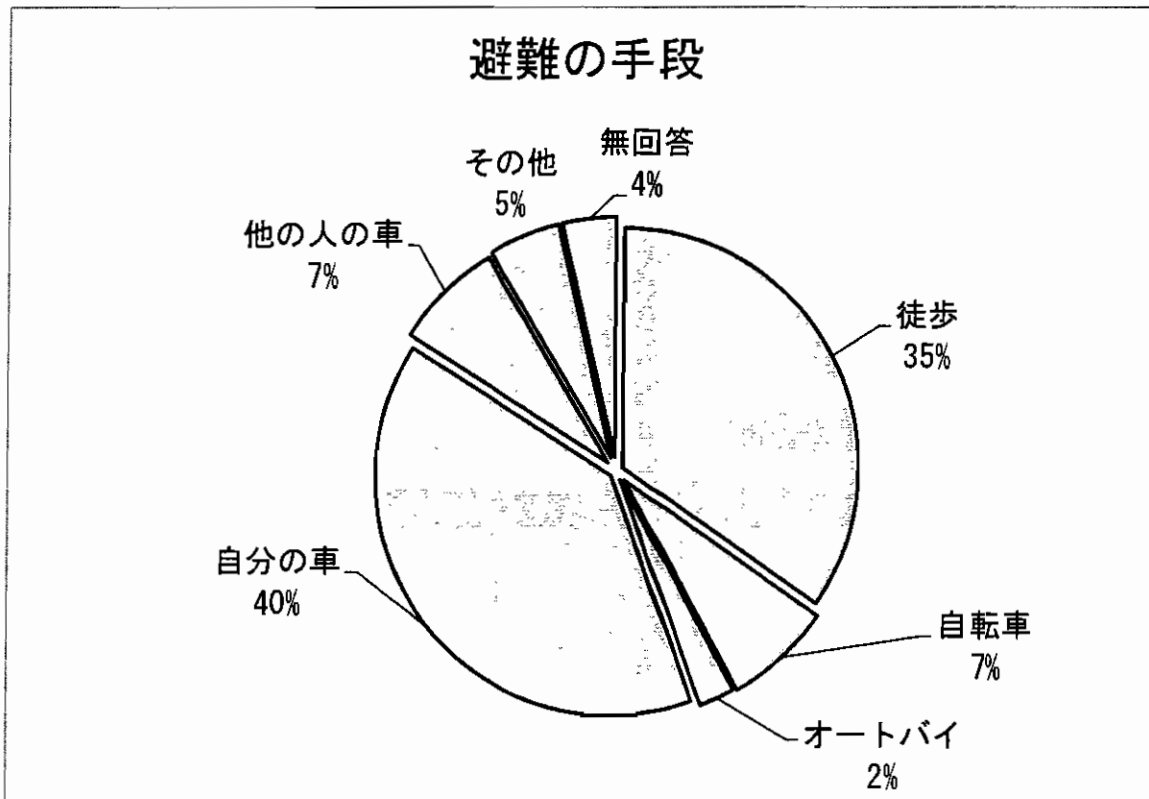
（その他）

- 会社の3階、仕事に行った、津波避難ビル内に住んでいる
- 会社内指定場所、船員のため沖合い
- 4階建てマンション
- 和歌山中心街のスーパーの屋上、息子の家（堺市）
- 子供の学校（高台の）、自宅に帰った（避難地域の会社にいたため）
- 最初に学校次に親戚の家へ移動、
- 自宅に戻る（海岸近くにいたので）

問8 避難の手段

問5で「避難した方」のうち、車（自分の車又は同乗）で避難した市民は38名であり47%の人が車両で避難した。

避難の手段	回答数	避難者総数	割合
徒歩	28	81	35%
自転車	6		7%
オートバイ	2		2%
自分の車	32		40%
他の人の車に同乗	6		7%
その他（避難場所にいた、建物の上階等）	4		5%
無回答	3		4%

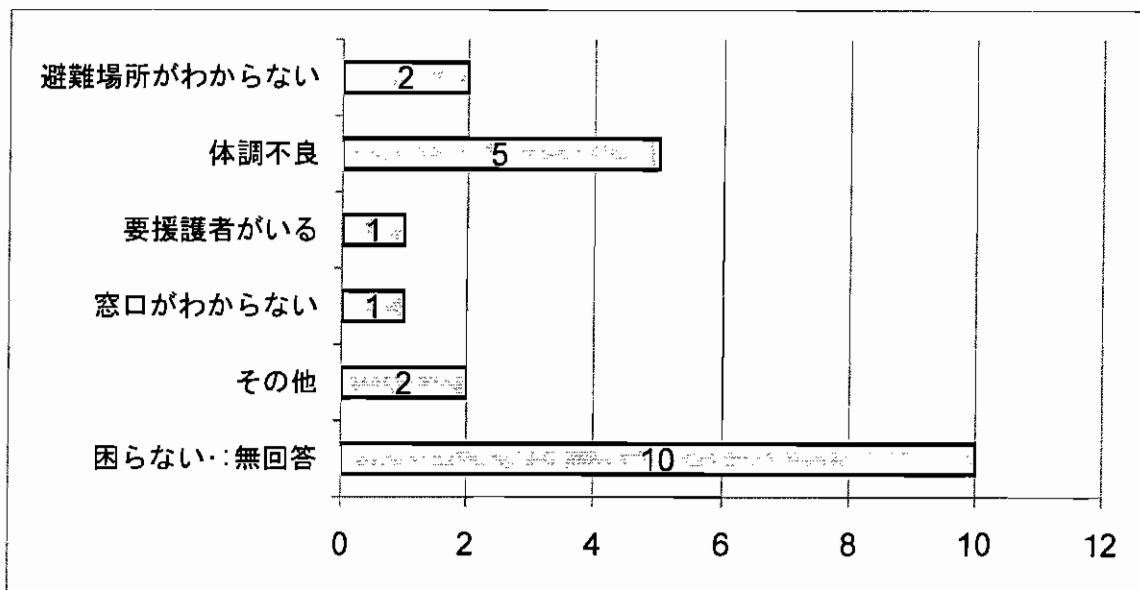


問9 避難の際に困ったこと

(指定避難場所に避難した人 21名)

指定避難場所への避難者では、「体調が悪いので移動が大変」という回答が5名(24%)であった。また、無回答や困らなかったという回答が4.7%あった。

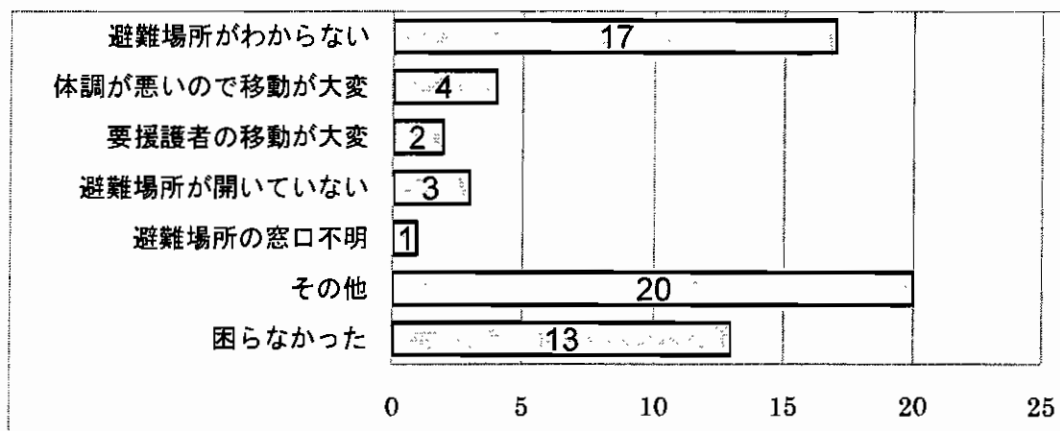
項目	回答者	避難者総数	割合
避難場所がわからない	2	21	10%
体調が悪いので移動が大変	5		24%
要援護者がいたので移動が大変	1		4%
避難場所が開いていなかった	0		0%
避難場所の窓口がわかりにくい	1		5%
その他	2		10%
困らなかった・無回答	10		47%



(指定避難場所以外に避難した人 60名)

「避難場所がわからない」と回答した人が17名(28%)であり、指定避難場所に避難した人で、避難場所がわからないという2名(10% 前頁参照)よりも多い。

項目	回答者	避難者総数	割合
避難場所がわからない	17	60	28%
体調が悪いので移動が大変	4		6%
要援護者がいたので移動が大変	2		3%
避難場所が開いていなかった	3		5%
避難場所の窓口がわかりにくい	1		2%
その他 (※ 別記)	20		34%
困らなかった・無回答	13		22%



※ 別記

(その他)

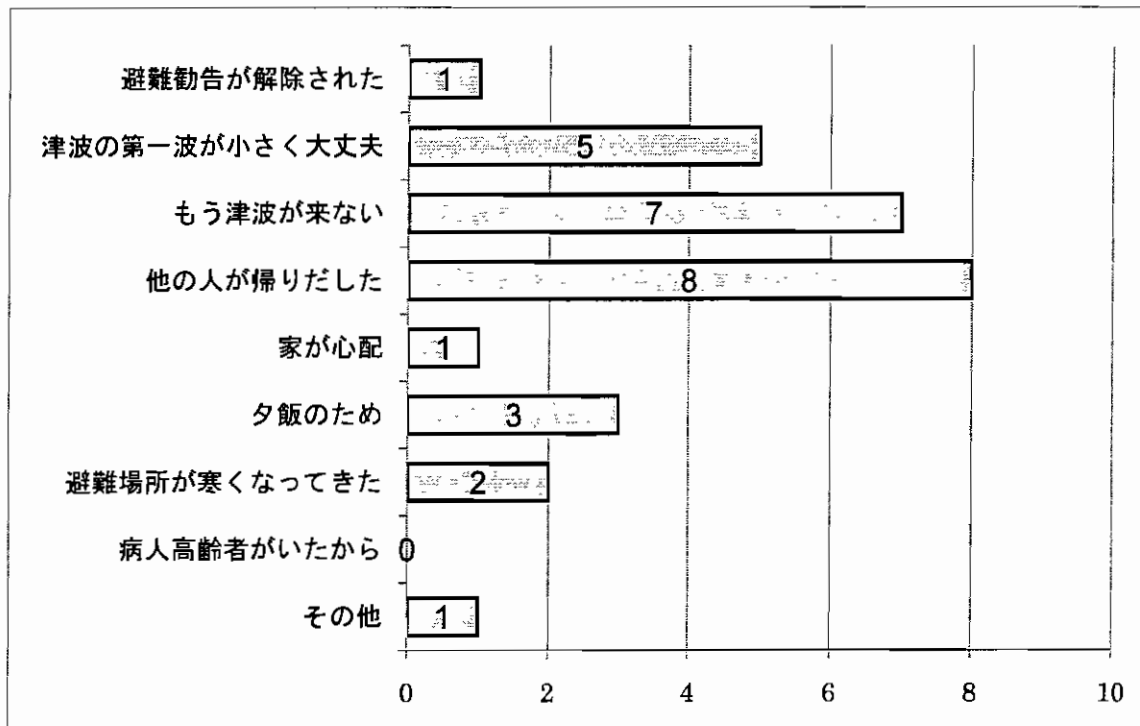
- 急いでいたので何も用意していなくて困った
- 避難場所が家から歩いて30分かかるので移動が大変だった
- 津波が早ければ徒歩では間に合わない
- 家族がばらばらだったので集まるのに時間がかかった
- 何を持っていった方がいいのかあわててわかりにくかった
- 通報は遅すぎると感じた
- 子供が保育所にいるので、保育所の動きがどうなっているのか不安だった
- 本当に避難するとき足のわるい主人は走れないので困る
- 子供が幼い・子供が小さい
- 家族がそれぞれ勤務や、孫が友達と出かけていたので連絡を取るまで避難できなかった
- 最初学校の正門が閉まっており通用門から入るように指示された

問10 避難先から帰宅した理由（複数回答）

「他の人も帰り出したから」（8名）「津波が来ないと思った」（7名）
「第一波が小さい」（5名）と回答した市民が多い。

（指定避難場所に避難した人 21名）

項 目	回答者	避難者総数
避難勧告が解除されたから	1	21
津波の第一波が小さくて大丈夫だと思った	5	
もう津波は来ないと思ったから	7	
他の人も帰りだしたから	8	
家のほうが心配だったから	1	
夕飯のため	3	
避難場所が寒くなってきたから	2	
病人高齢者がいたから	0	
その他（※別記）	1	



※ 別記

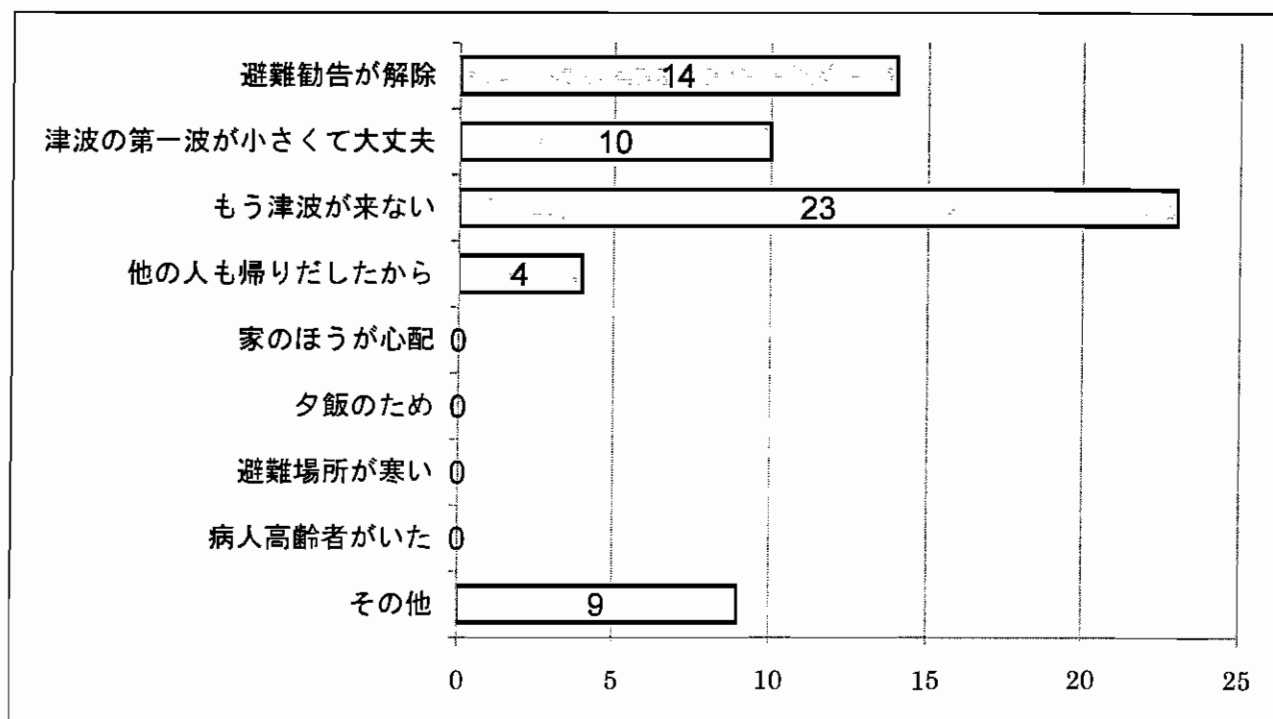
（その他）

○家族が家に帰宅して避難場所に来なかったから

(指定避難場所以外に避難した人 60名)

「もう津波が来ないと思った」(23名)「避難勧告が解除されたから」(14名)
 「津波の第一波が小さくて大丈夫だと思った」(10名)と回答した市民が多い。

項目	回答者	避難者総数
避難勧告が解除されたから	14	60
津波の第一波が小さくて大丈夫だと思った	10	
もう津波は来ないと思ったから	23	
他の人も帰りだしたから	4	
家のほうが心配だったから	0	
夕飯のため	0	
避難場所が寒くなってきたから	0	
病人高齢者がいたから	0	
その他 (※ 別記)	9	



※ 別記

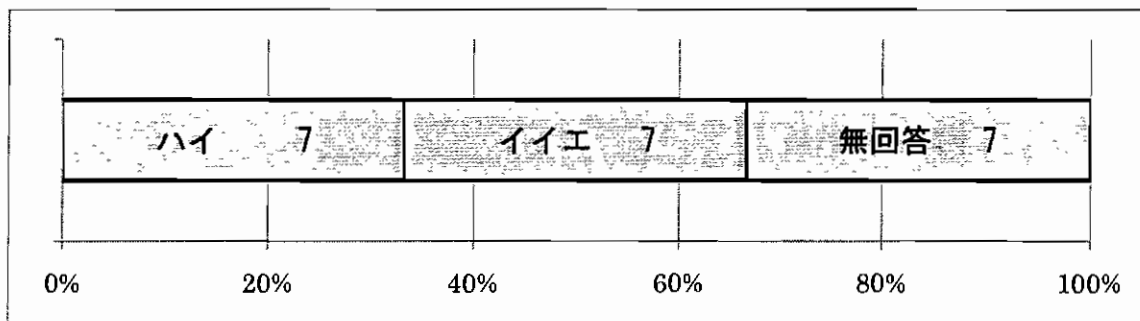
(その他)

- 近所の人たちが普通にしていると聞いたため
- スーパーの屋上に車を止めていたが、避難しているような人が見当たらなかったため
- 津波注意報になり体もしんどく不便になったため
- 津波が小さくなってきたから
- 家族がそろい、津波の状況も大丈夫だと判断したから

問 1 1 指定避難場所で誰が避難所運営の職員かわかったか
 (指定避難場所に避難した人)

7名の人が運営職員の判別ができなかった。

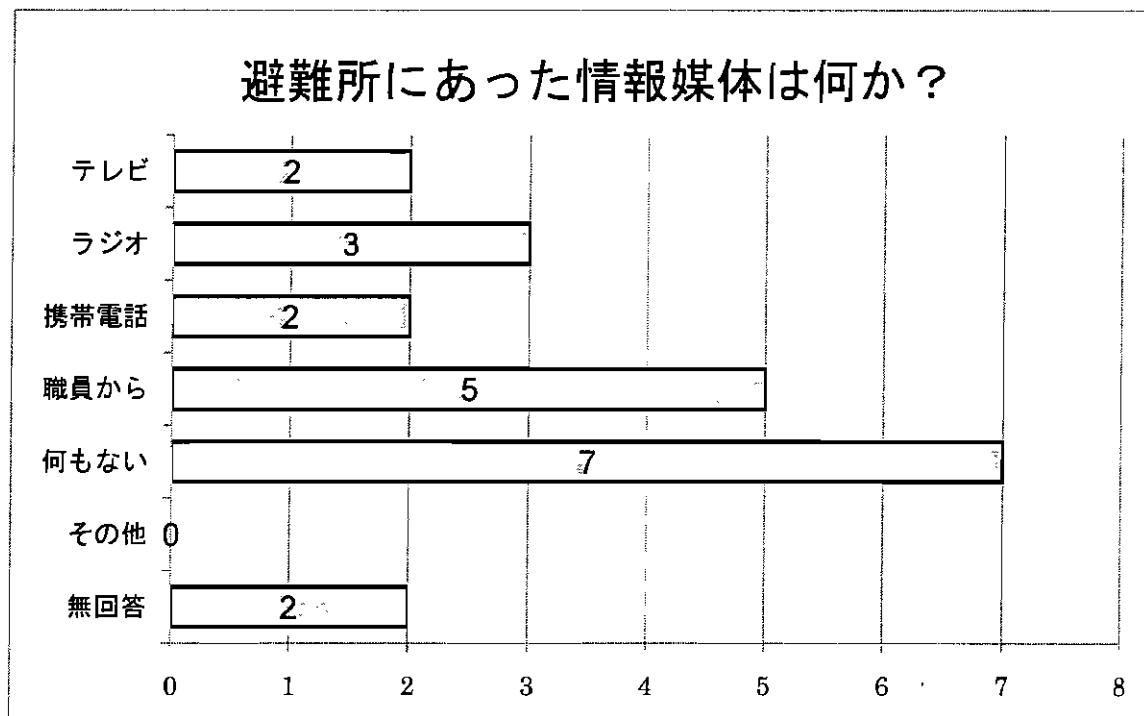
項 目	回答者	避難者総数
はい	7	21
いいえ	7	
無回答	7	



問 1 2 指定避難場所に情報が得られる媒体はあったか（指定避難場所に避難した人）

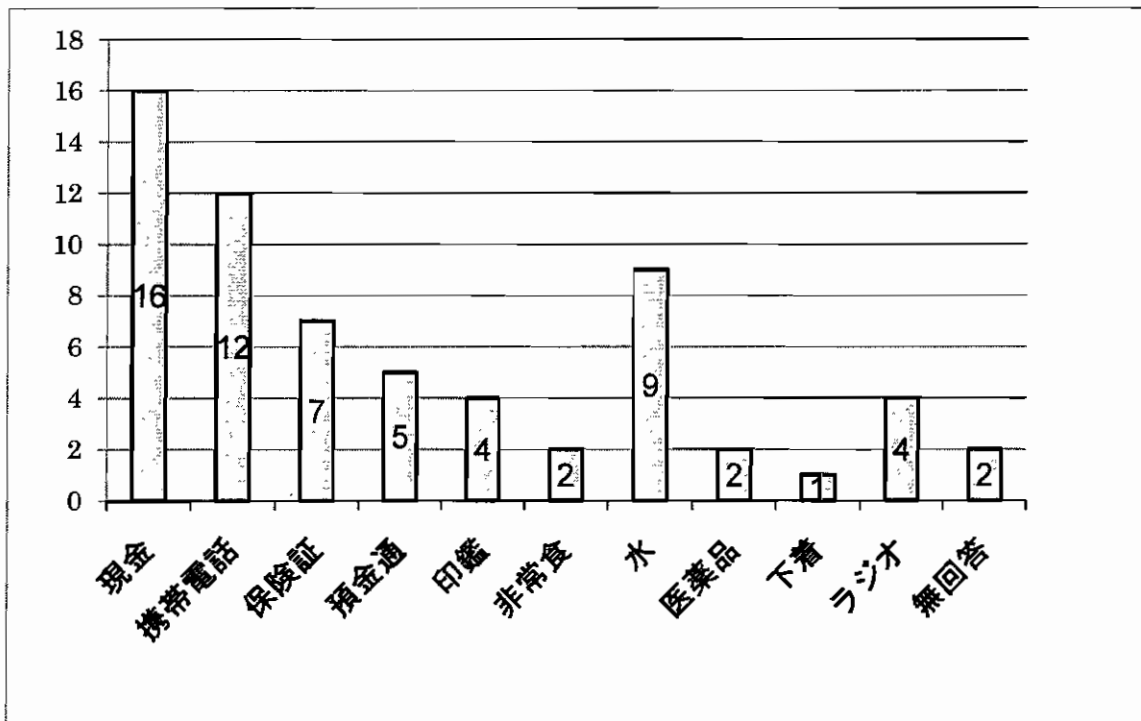
「何もなかった」7名、「職員からの情報」5名の順に多かった、また「テレビ・ラジオ」と回答した市民は合わせて5名であった。

項 目	回答者	避難者総数
テレビ	2	21
ラジオ	3	
携帯電話	2	
職員からの情報	5	
何もなかった	7	
その他	0	
無回答	2	



問 1 3 指定避難場所へ持参したものは何？（複数回答、指定避難場所に避難した人）

項 目	回 答 者	避難者総数
現金（財布）	16	21
携帯電話	12	
保険証	7	
預金通帳	5	
印鑑	4	
非常食	2	
水	9	
医薬品（常備薬）	2	
下着	1	
寝具（毛布、寝袋）	0	
ラジオ	4	
無回答	2	

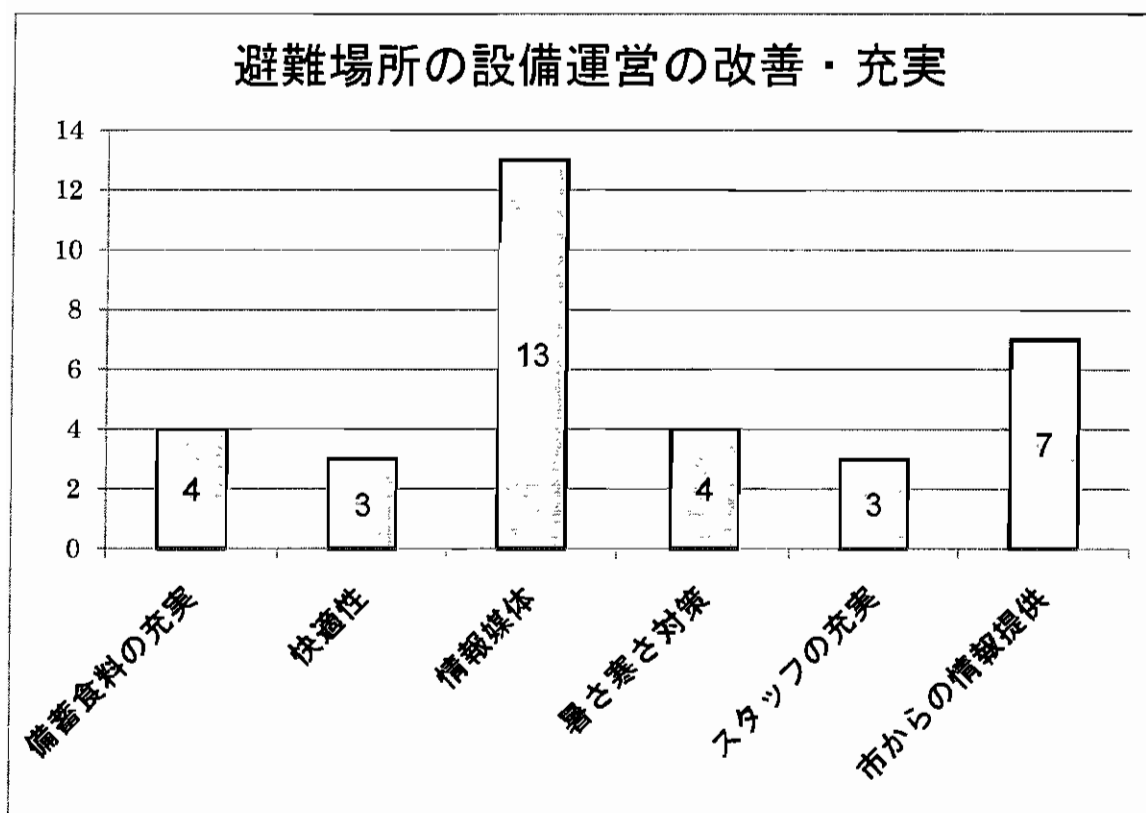


問 1 4 指定避難場所の設備・運営で改善充実してほしい事項

(複数回答、指定避難所に避難した人)

テレビ等の情報媒体の充実を希望している市民が13名でもっとも多く次いで市からの情報提供(7名)の順であった。

項 目	回答者	避難者総数
備蓄食料の充実	4	21
居住空間の快適性の確保	3	
テレビ・ラジオ等の情報媒体	13	
寒さ・暑さ対策	4	
運営スタッフの充実	3	
市からの情報提供の充実	7	

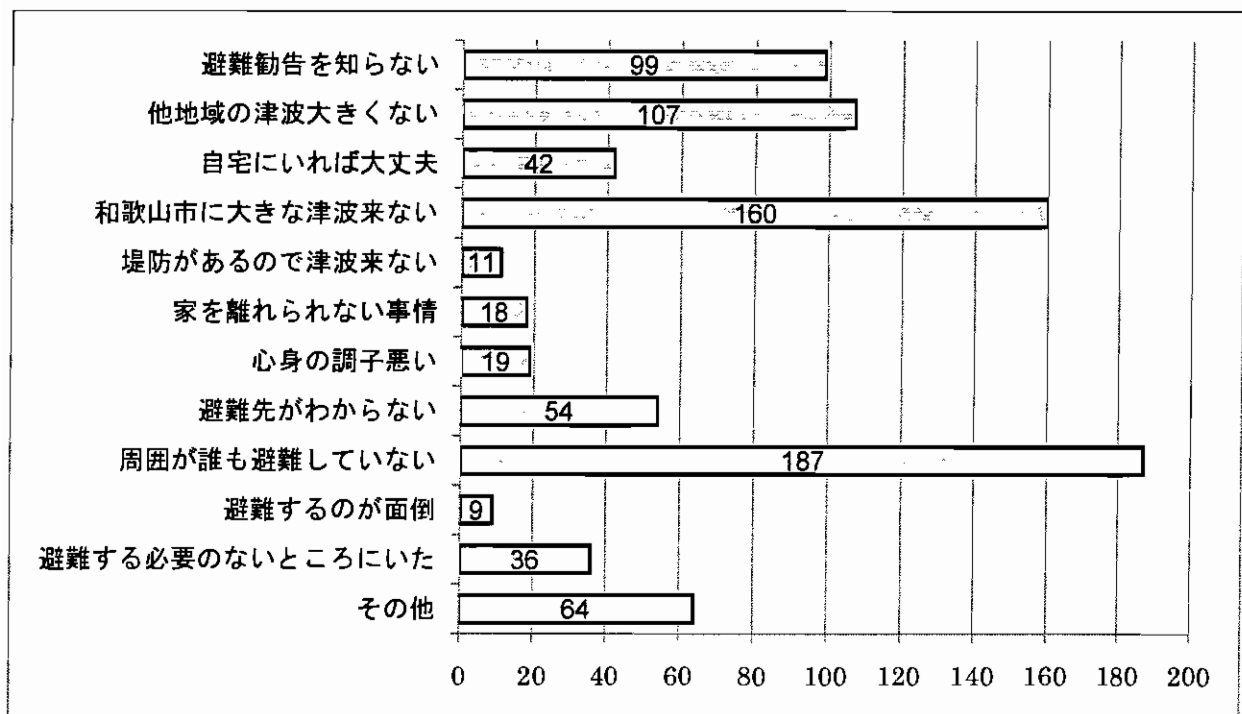


問 15 避難しなかった理由（複数回答）

「周囲の人が誰も避難していない」（187名）が最も多く、次いで「和歌山市に大きな津波が来ないと思った」（160名）「他地域に到達した津波が大きくない」（107名）、「避難勧告を知らなかった」（99名）の順であった。

また、少数ではあるが、病弱者、ペットがいるために避難できなかったという回答もあった。

項 目	回答者	避難しなかった人
避難勧告を出ていることを知らなかった	99	489
他地域に到達した津波が大きくない	107	
津波が来ても自宅の中にいれば大丈夫	42	
和歌山市には大きな津波が来ないと思った	160	
堤防があるため津波が来ない	11	
家を離れられない用事・事情があった	18	
心身の調子が悪かった	19	
どこに避難していいのかわからない	54	
周囲の人が誰も避難していなかった	187	
避難するのが面倒	9	
外出先で避難する必要のないところにいた	36	
その他（※ 別記）	64	



※ 別記（問15 避難しなかった理由の回答「その他」の内容）

（避難勧告）

- スピーカーの音が聞き取りにくく避難勧告を知らなかった
- 避難勧告の意味がよくわからなかった
- 避難を促すような放送など何もなかったのでどうすればいいかわからなかった
- 勧告を知った時には予想到達時刻を過ぎていた（2名）

（避難場所）

- 气象台の近くで高台に家がある、家が高台なので
- 避難場所の小学校がすぐ隣なので
- 高いビルの上階にいた
- 自宅マンションが周囲で一番高いから
- 近くの避難所は自宅とあまり変わらない高さなので避難しなかった
- 避難場所も自宅も海からの距離があまり変わらない
- 和歌浦小学校に避難している人が多いので和歌浦東地区の人まで避難する場所がないと思っていた、また避難するまでに川を渡らなければならない
- 避難所の和歌浦小学校がもう一杯だと聞いたから

（仕事・業務のため・旅行）

- 地区住民の人の避難の状況を把握するために
- 仕事で防災無線に気が付かなかった
- 仕事のため離れることができなかった、仕事（13名）
- 仕事にいかねばならなかったため（3名）
- 仕事で会社は何も指示なし（3名）
- 仕事だったので2階に避難した
- 仕事先で海岸から離れていた
- 職場が県立医大だったから
- 責任者の立場のため全員の無事を確認するまで帰れなかった
- 外出中でまったく知らなかった
- 職場におり連絡がなかった
- 旅行、出張等のため和歌山にいなかった（3名）

（津波の状況を見て避難を考えた）

- 家から川を見ていた
- 再三にわたり潮位を観測した
- 地震の揺れも知らなかったため、テレビで東北の様子があったが必要性を感じなかった
- 避難の必要性を十分に感じていたがテレビ等の津波動向により最終的にしなかった
- テレビで津波の状況を見て
- 家が海沿いでないため川があふれる程度だろうと思った
- 大きな水門が閉まったため、また干潮だったため川の水がほとんどなかったため
- 避難指示が出るまで待とうと思った（2名）

(避難困難者)

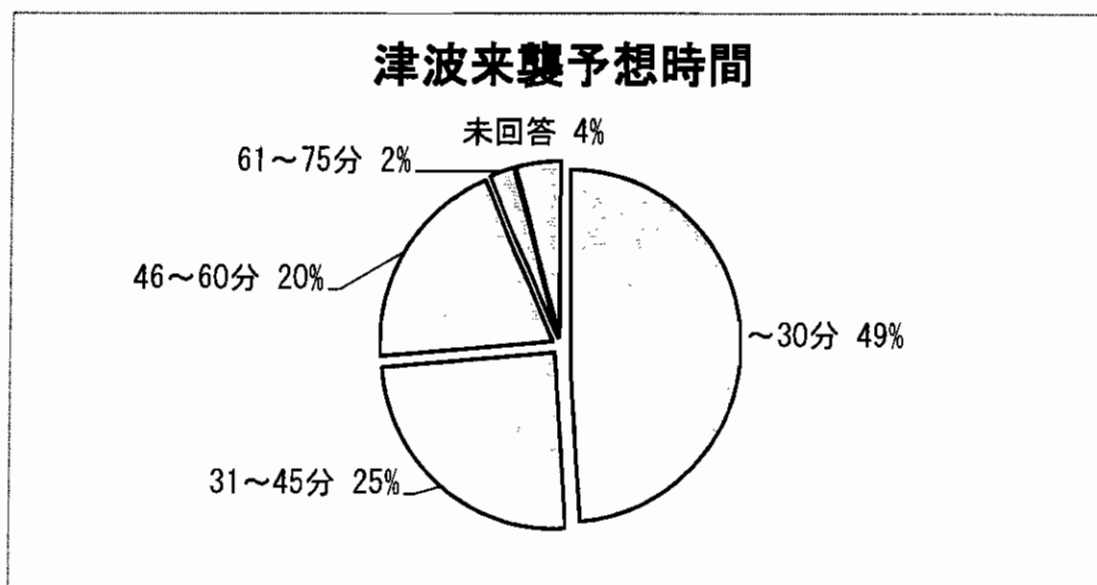
- 主人の母に避難することを勧めたがあれこれ持っていきたがりなかなか準備ができず一人残しておけなかった
- 寝たきりの姉がいるので避難しにくい
- 病院で診療中
- 妊婦の娘が家に帰ってきていたので
- ペットがいるから

問16 津波来襲予想時間

東海・東南海・南海地震が同時発生した場合の津波第一波の到達時間は、和歌山市雑賀崎で52分、大川港で61分と想定されている。

「地震発生から30分以内」(282名)に到達すると回答した市民がもっとも多く、次いで、「31分から45分」(143名)「46分から60分」(114名)の順であった。

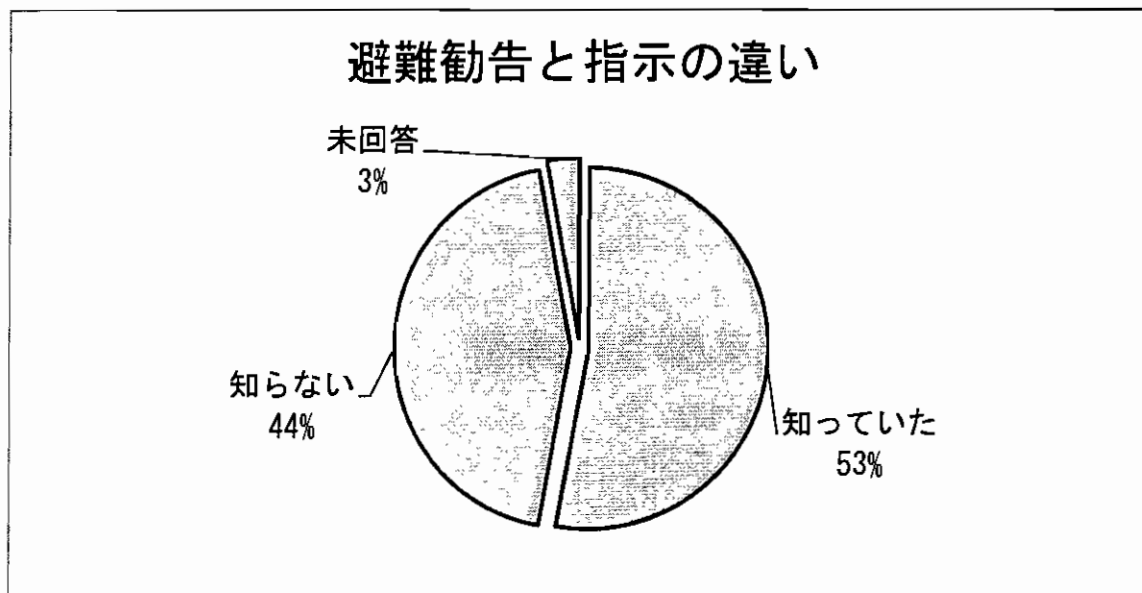
項目	回答者	回答者総数	割合
地震発生～30分	282	577	49%
31分から45分	143		25%
46分から60分	114		20%
61分から75分	14		2%
未回答	24		4%



問 17 避難勧告と避難指示の違い

市民の44%が「知らない」と回答した。

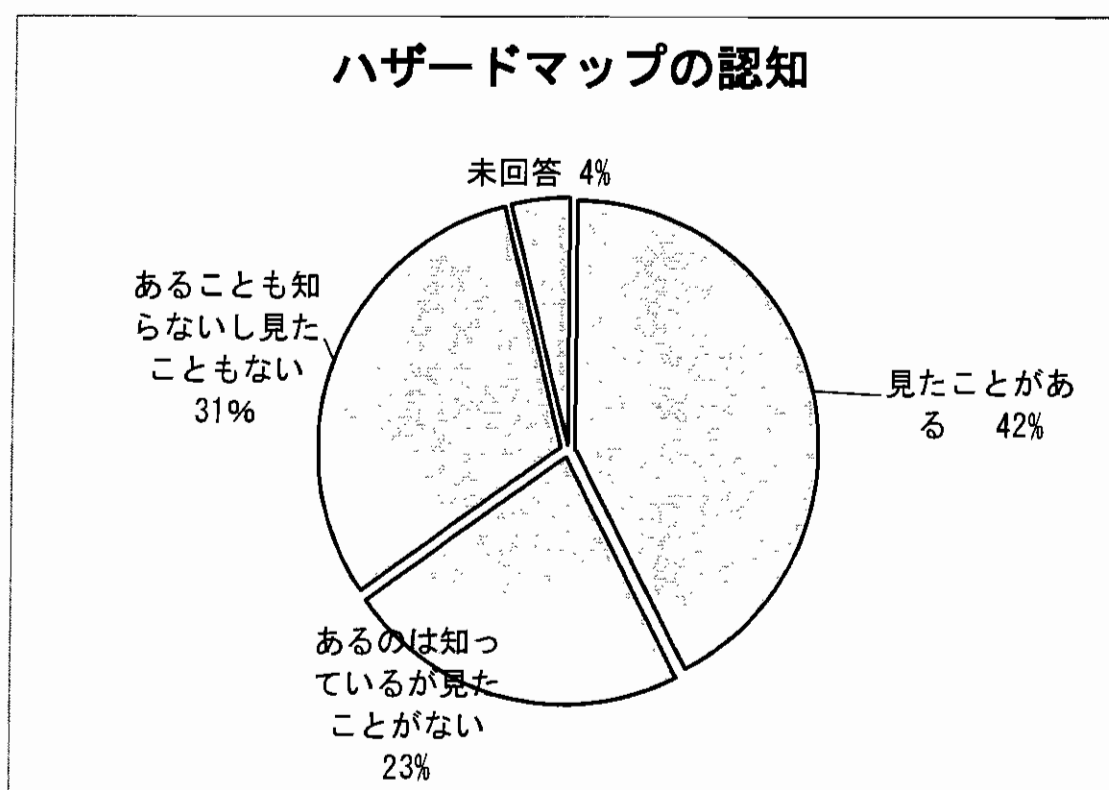
項 目	回答者	回答者総数	割 合
知っていた	305	577	53%
知らない	255		44%
未回答	17		3%



問18 ハザードマップを見たことがあるか

ハザードマップを「見たことがある」と回答した市民は245名（42%）、
「見たことがない」「あることも知らない」と回答した人が合わせて54%であった。

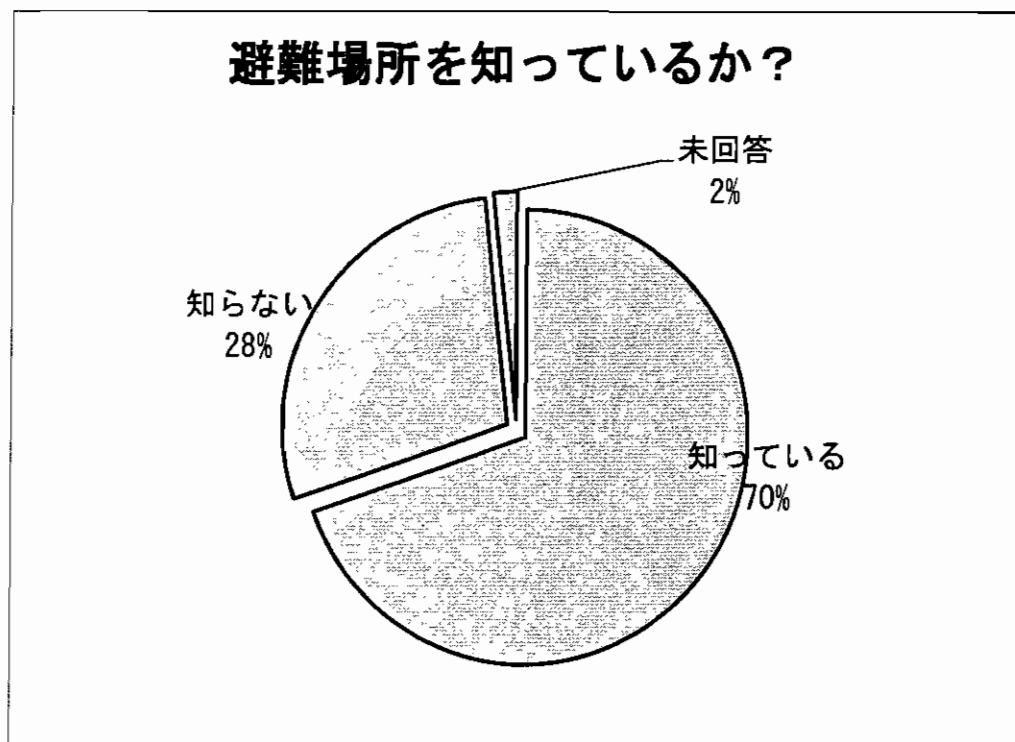
項目	回答者	回答者総数	割合
見たことがある	245	577	42%
あるのは知っているが見たことはない	131		23%
あることも知らないし見たこともない	179		31%
未回答	22		4%



問19 避難場所を知っているか

避難場所を「知っている」と回答した市民は402人（70%）知らないと回答した市民は165名（28%）であった。

項目	回答者	回答者総数	割合
知っている	402	577	70%
知らない	165		28%
未回答	10		2%

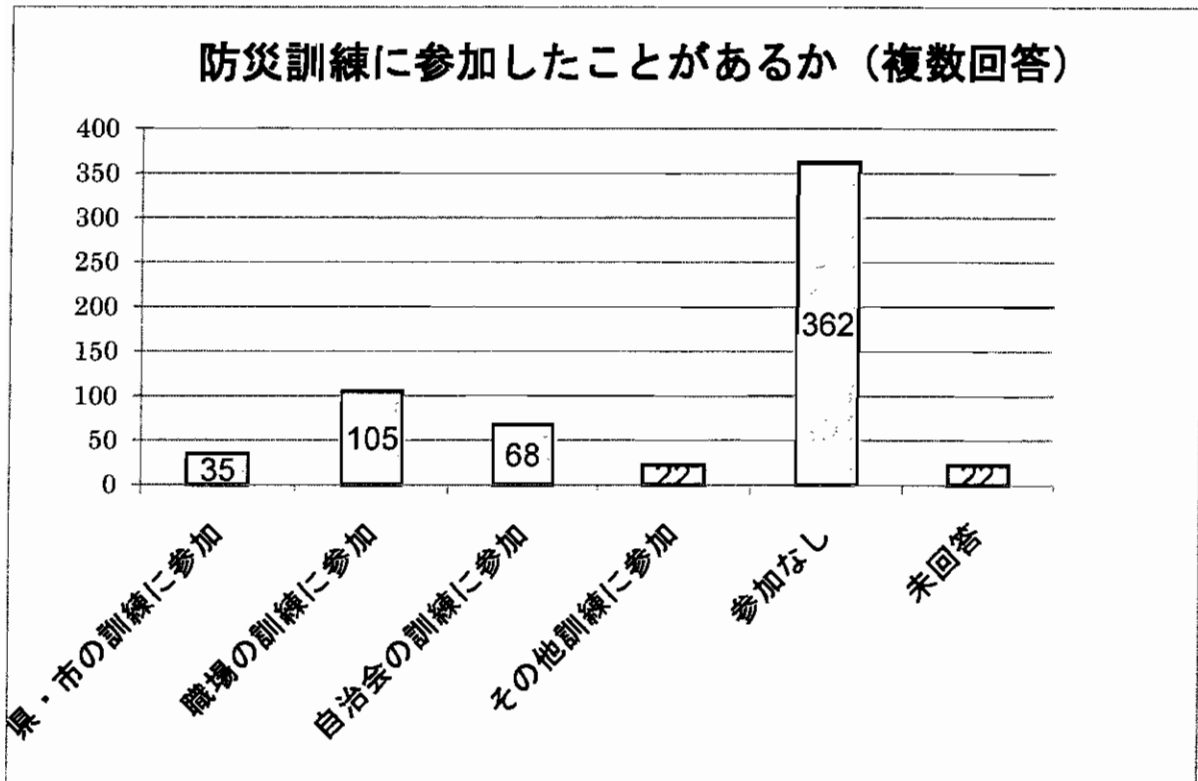


問20 防災訓練に参加したことがあるか（複数回答）

「防災訓練に参加したことがある」と回答した人は193名、「参加したことがない」と回答した人は362名であった。

項 目	回答者	回答者総数
県・市等が主催する防災訓練に参加したことがある	35	577
職場の防災訓練に参加したことがある	105	
自治会の防災訓練に参加したことがある	68	
その他の訓練に参加したことがある	22	
参加したことがない	362	
未回答	22	

※ 訓練に参加したことがある人は193名（参加者延べ230名から重複参加者を修正）



問2-1 日頃から何を準備しているか（複数回答）

○懐中電灯や携帯ラジオ等を準備している	355 / 577
○地震が起きたとき避難する場所を決めている	292 / 577
○非常持ち出し品を準備し、いつも持ち出せるようにしている	205 / 577
○自宅には、地震後、家族が3日程度食べていけるだけの食料・飲料水を準備している	132 / 577
○家族がばらばらになった時に落ち合う場所を決めている	136 / 577
○家具を固定している	109 / 577
○家族の連絡方法を決めている	80 / 577
○消火器や水を入れたバケツなどを用意している	91 / 577
○家の耐震診断を受けている	34 / 577
○家の耐震補強をしている	32 / 577
○風呂にいつも水を入れている	13 / 577
○自主防災組織の活動に参加している	6 / 577
○その他（※ 別記）	32 / 577
○未回答（準備なし）	40 / 577

※ 別記

（その他）

- なにも準備していない（27名）
- ヘルメット
- 飲み水
- 対策手順を把握準備している

問 2 2 今後どのように取り組むか（複数回答）

○地震が起きたとき避難する場所を決める	3 3 2 / 5 7 7
○非常持ち出し品を準備し、いつも持ち出せるようにする	2 8 6 / 5 7 7
○家族がばらばらになったときに落ち合う場所を決める	2 5 3 / 5 7 7
○懐中電灯や携帯ラジオ、医薬品等を準備する	2 4 5 / 5 7 7
○家族の連絡方法を決める	2 2 8 / 5 7 7
○自宅に、地震後、家族が3日程度食べていけるだけの食料 ・飲料水を準備する	2 0 7 / 5 7 7
○家具を固定する	1 2 8 / 5 7 7
○風呂にいつも水を入れておく	9 7 / 5 7 7
○自主防災組織の活動に参加する	7 9 / 5 7 7
○地震被害を補償する地震保険等に参加する	6 2 / 5 7 7
○消火器や水を入れたバケツなどを用意する	6 0 / 5 7 7
○家の耐震診断を受ける	2 1 / 5 7 7
○家の耐震補強をする	1 8 / 5 7 7
○その他（※ 別記）	9 / 5 7 7
○未回答	4 5 / 5 7 7

※ 別記

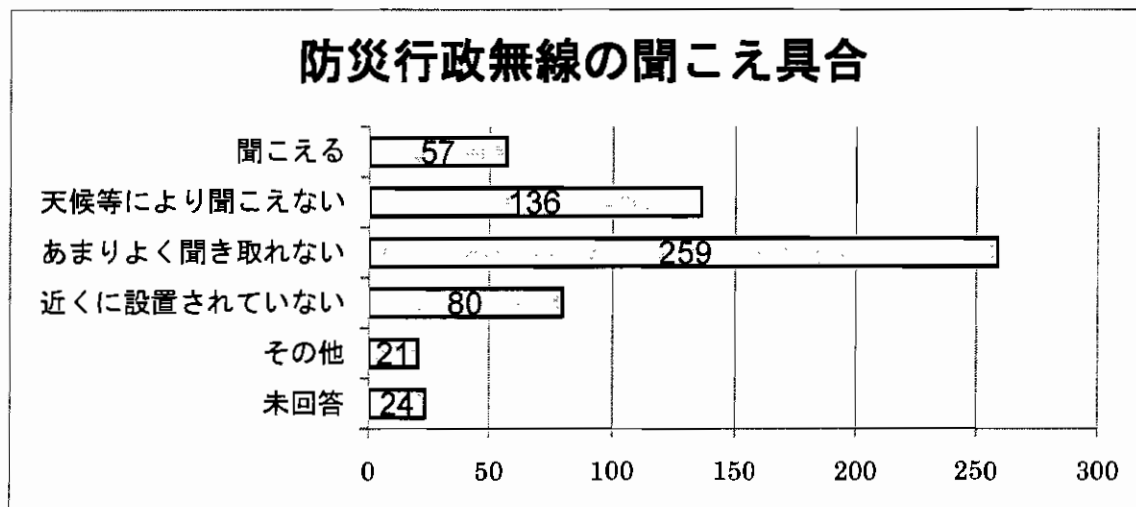
（その他）

- 準備なし（3名）
- 海が近いから難しい
- 避難場所変更
- 避難する体力なし

問23 防災行政無線の聞こえ具合

「聞き取れる」「状況により内容が聞き取れない」と回答した市民は193名（33%）、
「内容が聞き取れない」「近くに設置されていない」と回答した市民は合わせて339名
（59%）であった。

項 目	回答者	回答者総数	割合
ふだんから放送内容がはっきりと聞き取れる	57	577	10%
よく聞こえるときもあるが、雨や風の具合で聞き取れないこともある	136		23%
ふだんから放送の内容があまりよく聞き取れない	259		45%
近くに防災行政無線の屋外拡声器（スピーカー）が設置されていない	80		14%
その他（※ 別記）	21		4%
無回答	24		4%



※ 別記

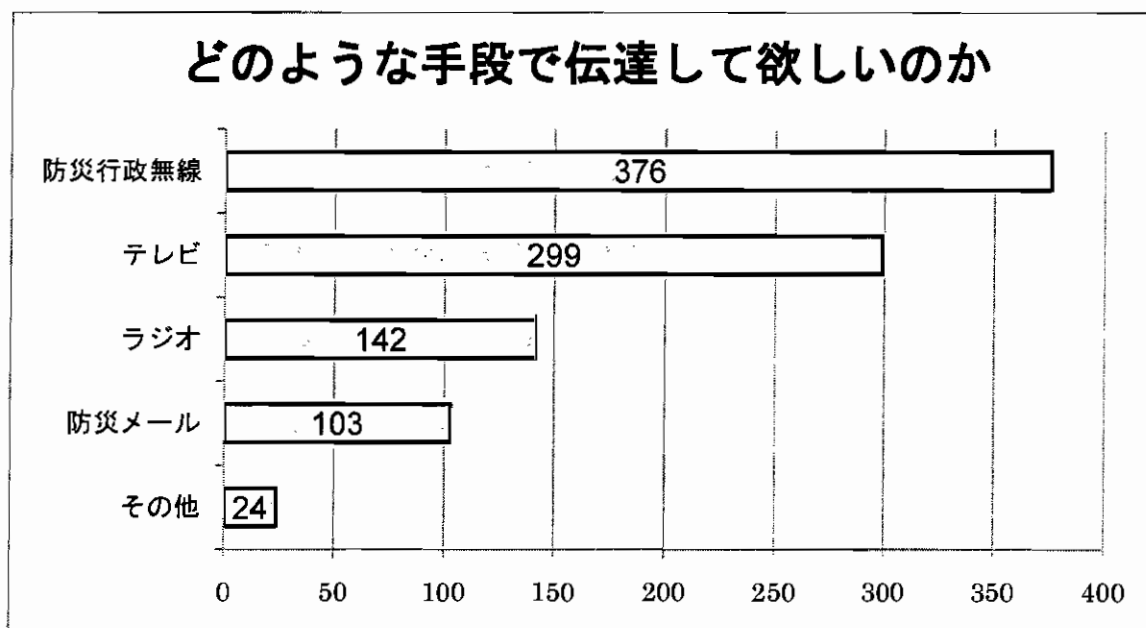
（その他）

- 耳が悪いので聞き取りにくい（砂山）（2名）
- 自宅内にいるときは聞き取れない（湊）
- 気づかない・わからない（宮前）（和歌浦）（高松）
- まったく聞こえない（他の地区のスピーカーからのほうがよく聞こえる）（野崎）
- 響いて聞き取りにくい（貴志）
- 町内放送のスピーカーはよく聞こえるが、防災行政の放送は知らない（宮前）
- あまりきいたことがないので近くに設置されていないと思う（雑賀）
- 放送しているのも知らない（雑賀）
- 何を言っているのかわからないので聞いていない（雑賀）
- 2階にいと聞こえるが1階だと聞こえない（和歌浦）

問24 どのような手段で伝達して欲しいか（複数回答）

「防災行政無線」による伝達を希望する市民は376名であった。
次いで「テレビ・ラジオ」などの媒体が合わせて441名、メール等が103名であった。

項目	回答者	回答者総数
防災行政無線の屋外拡声器	376	577
テレビ	299	
ラジオ	142	
防災メール	103	
その他（※ 別記）	24	



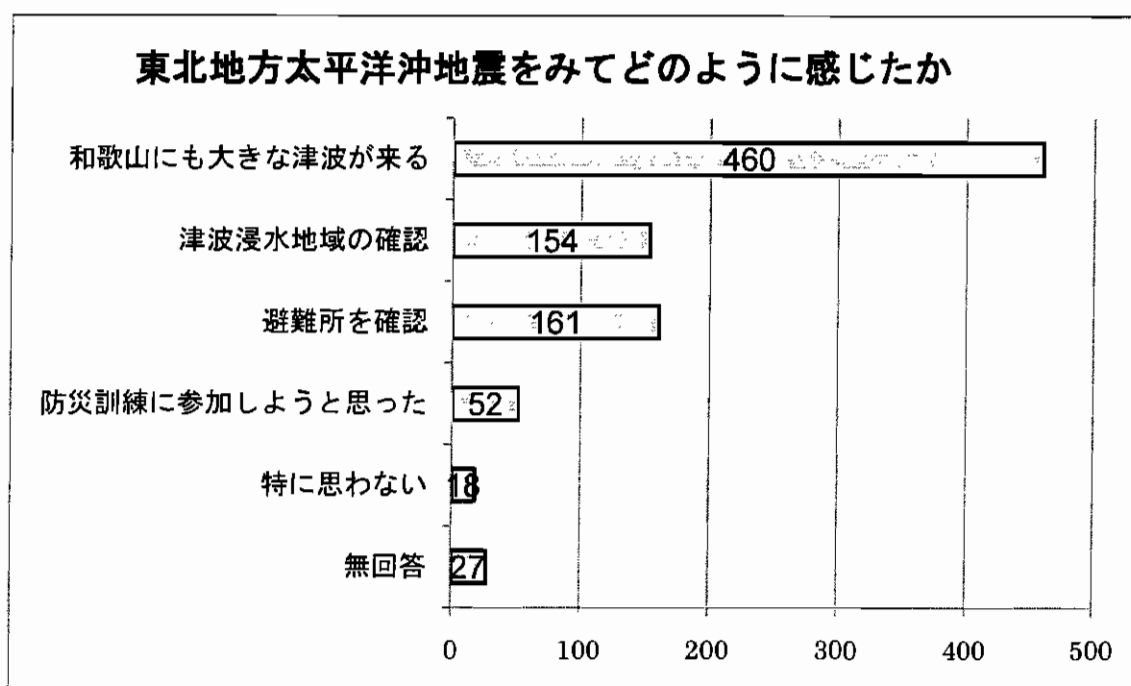
※ 別記

（その他）

- テレビ・ラジオあり、携帯電話なし（砂山）
- 放送では聞き取りにくいのでサイレン（砂山）（和歌浦）
- 家の中にいると拡声器が聞きづらい、また音を聞くために表に出ると放送が終わっている（砂山）
- スピーカーが自宅で聞こえるのならそれがいい（野崎）
- 自治会への連絡・町内会連絡網（砂山）（宮前）（和歌浦）
- 消防車等での避難勧告（宮前）パトロール（雑賀）巡回広報（市、警察、消防）（和歌浦）（名草）
- よく聞き取れるのなら拡声器でもよい、でも昼間は聞き取りにくい（雑賀）
- 全部（あらゆる手段）（雑賀）（名草）
- インターネット（雑賀）（名草）
- 5分おき10分おきに伝達してほしい（名草）

問 2 5 東北地方太平洋沖地震をみてどのように感じたか（複数回答）

項 目	回答者	回答者総数
和歌山にも大きな津波が来るかもしれないと思った	460	577
自分の住んでいる地域が津波浸水地域か確認しようと思った	154	
避難所を確認しようと思った	161	
防災訓練に参加しようと思った	52	
特に何も思わなかった	18	
無回答	27	



問28 自由意見

※ 内容が類似の意見もあるが、重複をいとわず全員の意見を記述している。

(避難)

- 足が不自由なので、30分で避難できるか心配
- 津波時の避難場所をたくさん設定してほしい。
- 近くに高台の避難場所がない、※スピーカーをつけてほしい
- 身障者はどうすればいいのか
- 避難所への救援物資の輸送ルートは考えているのか？
- 保育所のそばに避難できる建物を建ててほしい
- 避難所の耐震化
- 避難場所がわからない
- 日赤病院は避難所として受け入れてくれるのか
- 避難所は津波の時に安全なのか？
- 津波が起きたときどこに避難すればいいのか、近くに高台もなくハザードマップにも詳しく乗っていない
- 中州は高い建物がない、老人には避難所へ行くのがたいへん
- 湊小学校高台ではないので心配
- 避難経路の安全確保、不法係留船舶等避難に際し障害を起こす恐れがあるものを見直し
- 高台に避難場所を設定してほしい
- 避難場所標高の低い小学校で大丈夫か、避難場所の確認を
- 避難可能な場所がどこにあるのかわからない(近くの高い場所はどこか教えてほしい)
- 高齢者の誘導・移動について不安(地区で話し合いをしたが結論でてない)
- 過去の地震や津波の被害などを知りたい、避難経路を考えるために
- 津波警報等が出た場合はみんなで協力することが重要
- 島橋南1丁目、西小学校は遠い、近くの高いところがよい
- どこに避難していいのかわからない
- 一人で避難しなければならないので不安
- ペットと一緒に避難する方法など、新聞等に紹介してほしい
- 津波が来た場合いまの避難所で大丈夫か不安
- 指定されている避難場所までは遠い
- ピッグ愛は夜間避難できるように開いてますか
- 障害児がいるので、避難所に避難したときに迷惑をかけるのではないかと不安に思っている
- 夜中に避難したときに学校の鍵が開いているのか心配、鍵を持っている人よりも先についた時はどうするか…そういう内容も知りたい
- 避難所毎の訓練が必要
- 避難場所がわからないので知らせてほしい
- 小雑賀の避難所は自治会館ですが場所が狭いので十分ではない、宮前小学校では高齢者の移動はとても難しく、どこへ避難していいのか困っている

- 自治会からの連絡はない、避難場所さえ知らない、防災訓練も聞いたことがない
- 避難場所がわからない、防災訓練どこでやっているのかわからないので情報が欲しい
- 自宅以外に、職場等にいる場合を含めて対策を考えていかなければならない
- 和歌浦小学校では危ないのではないかと、安全な避難場所を教えてください
- 高台の避難場所についての情報が欲しい
- 防波堤の高いのを築いて避難・被災しないようにして欲しい
- 母親(85歳)が家に一人で住んでいることが多いので、自治会などで避難場所へ誘導して欲しい
- 地区別に避難場所をもっとはっきり示して欲しい、海拔の表示をもっと増やして欲しい
- 指定避難場所では安心できない、安全な高台を確保して欲しい。住民がすべて避難できるように数多く
- 大きな津波の避難場所としては松下体育館では役立たない
- 和歌山工業高校に避難したとき学校の職員により否定された旨、総合防災課の統制はどうなっているのか？
- 汚水処理場が緊急避難場所になっているが夜間休日はしまっているときがある、津波予想時刻が切迫しているときはどうしたらよいか、緊急避難場所は24時間態勢でお願いする
- 高台に向かう道の整備が必要
- 避難場所を総点検すべき
- 高台に誘導標識等を設置して欲しい
- 秋葉山公園を避難場所として整備することを望む
- 和歌浦小学校は津波の時危ないのではないかと、安全なのはどこか？
- 津波の際の避難場所がわからない、秋葉山に大勢の人がいったら大パニックになるか不安、具体的に避難場所への行き方を知りたい
- 和歌浦地区の避難所は津波に大丈夫か
- 和歌浦地区の避難所は和歌浦小学校だけでは不十分、どこへ避難すればいいのか
- 秋葉山に避難できる建物をたて備蓄品を置いたらどうでしょうか
- カンパンが配られたが、早すぎるのではないかと
- ペット連れ用の避難所を
- 高齢なので家族に「私はいいから」自分たちが逃げてと言っている
- 避難場所は夜間だと無理かもしれない
- 再度避難のアナウンスをして欲しい、堤防の整備もして欲しい
- 和歌浦小学校の避難場所の再検討、拡声器がないので情報が伝わらない、早急な設置
- 山頂へ逃げる道を整備して欲しい
- 目が不自由、脳梗塞の後遺症のため介護を受けているので避難しにくい、近くに一時避難の鉄骨の高台を作って欲しい
- 高台への道を何箇所も整備して欲しい、老人、障害者が逃げやすいように
- 近くの山の登り口を広くして欲しい、避難場所の紀三井寺は少し遠いので移動に時間がかかる
- 海拔の表示を増加、浜宮小学校は亀の川が近いが大丈夫
- 近くに高いビルがないのでどうすればよいか、船尾山など子供、足の不自由人でも登れるように登山道を整備して欲しい

- 自宅が海の近くにあるので避難するところを高台に作って欲しい
- 避難場所の高さがなく津波で浸水しないか心配
- 浜宮小学校が避難所に適しているか確認をお願いする
- 近くに県看護学校があり運動場近くであるがフェンスに鍵がかかっており避難がすぐにできない、年寄りの足でもすぐ避難できるように鍵をかけないで欲しい
- 引っ越してきたばかりで避難場所がわからない、ハザードマップが欲しい
- 近くに北山がある、登れるようになってないので登れるようにしてほしい
- 避難勧告がどこの地域に出されたのかわからない、拡声器の音が誰にでも聞こえるようにしてほしい
- 紀三井寺競技場は津波の時は危険と思う、なぜ競技場が避難場所に指定されているのか
- 避難所の浜宮小学校は津波の時土地が低いので山など高台へと思うが、その場所が少ないので避難できるかが心配
- 名草小学校では心細い
- 新しい防災マップに直せたら心強い
- 三葛の看護学校が避難場所になっているがいつも閉まっている
- 自宅が海に面しているので、逃げようにもその道を通らなければ避難できないので今回もあきらめてしまった
- 今回の地震の津波がすごく大きかったので、避難所の再度見直しをしようと思いました
- 避難した小学校の体育館は、まだ閉まっていた対応はとてものんびりしていました、職員からの情報は何もなくラジオをもってくればよかったと思った。津波の避難なのに体育館の低いところで大丈夫なのか
- 看護学校体育館から3階以上の避難所に変えて欲しい、看護学校は避難所として大丈夫か
- テレビで避難勧告が出ていたが、どの地区に対する避難勧告か不明、地区名も入れて欲しい
- 紀三井寺団地の避難場所として山が使えないか
- 避難場所が学校の講堂だったので、自宅の2階のほうが安全と思い避難しなかった
- 状況に応じた避難場所の選定とその周知、現避難場所の見直し
- 津波の場合その高さに応じて避難場所の指定が必要である
- 堤防の補強や、耐震の十分な避難場所を新設
- 地震の揺れがなかったから避難しなかった
- 学校で上の階に避難できるよう施設等に指導を徹底しておいて欲しい
- 避難場所で住民を指導誘導できる人を早急に配置
- 高齢者の避難について検討
- 避難場所は安全なのかはっきりして欲しい、避難場所の見直しと周知
- 名草小学校は津波に危険だと思う、避難場所での備蓄が必要
- 名草小学校は避難場所だが、名草山や紀三井寺に行かないと助からない、見直しが必要
- 紀三井寺陸上競技上の正門以外裏門の開放を至急の避難が困難
- 冬季の防寒具等の備蓄を
- 明和中学の避難所の見直し

(防災行政無線関連)

- 防災無線の内容が聞き取れない、海拔の表示をもっと多くの場所(特に公共施設に表示)
- 屋外拡声器をもっと知らせてほしい
- スピーカーの音を大きくしてほしい、ハイツに住んでいるので情報が届かない
- 屋外拡声器を全市に設置、津波防波堤を作る
- 屋外拡声器をたくさん設置して欲しい、サイレンを高くして
- 防災無線が確実に聞き取れるよう手段を考えて欲しい、学校が避難場所で大丈夫か
- 土入地区に野外拡声器を設置してほしい、避難場所の案内板を設置して
- 避難勧告の放送はせきたてる口調で言ったほうがよい、ゆっくりでは緊迫感がない
- 避難勧告指示の伝達方法は時間帯によって違ってくると思う、夜中でも市民に伝える方法は
- 年配の夫婦なのでもう少しわかりやすく連絡してほしい
- 塩屋6丁目は5時のチャイムも聞き取れない、野外拡声器を設置して欲しい
- 拡声器をもっと増やして欲しい
- 放送内容がまったくわからないので何とかして欲しい
- 塩屋から避難場所の高松小学校までは25分ほどかかるので2次災害にあう可能性がある、別な場所を指定して欲しい
- スピーカーは声がわからないので、音の種類で周知するのも一案ではないか
- 理解しやすいようにゆっくり聞こえるように伝達して欲しい、
- 防災行政無線の設置をお願いしたい
- 水路の清掃をお願いします
- 避難勧告・指示を徹底して伝達して欲しい
- 拡声器の音が部屋の中にとまったく聞こえない
- 防災無線や市の広報車は聞き取りにくい、避難場所が安全かどうかわからない、高齢で、足悪く避難しようと思ってもできない、考えて欲しい
- 放送内容がわからない
- 聞き取ることができない
- 拡声器を増やして欲しい
- 難聴のためスピーカー、ラジオ、電話等が聞こえない、FAX やメールで伝達できないか?
- 拡声器の音が聞こえにくい、各地区に設置して欲しい
- 津波が発生した場合速やかに住民に連絡するシステムを確立して欲しい、自治会の連絡網等
- 音がよく聞き取れない、マリーナができて湾のようになり津波の心配をしている
- 広報車の呼びかけの内容がわからない、スピーカー音や、内容を検討してくれ
- 数を増やして欲しい、音量を大きくしてほしい
- 毛見地区42号線に1~2箇所拡声器が必要、沿岸ではまったく聞こえない
- 拡声器はほとんど聞こえない状態、各町へ多くつけることが大事
- 拡声器で避難勧告・避難指示を発表するときに避難場所も同時に発表してほしい
- スピーカーの音をもっとわかりやすく大きく外でもよく聞き取れない

- 防災無線の拡声器の声が聞こえない、早く聞こえるようにしてほしい
- 防災無線等が聞こえなく困った、広報車は路地にも入ってきてほしい
- 避難する地区と、しない地区があったそうで、はっきりわからない
- 放送する人は聞き取りやすい声を希望
- 音量が小さいので聞き取りにくい、家の中では完全に聞こえない
- 避難勧告等は何度も実施して欲しい
- 紀三井寺団地内に拡声器の設置を要望、亀の川のかさ上げ
- サイレンと放送で避難を促して欲しい
- 津波の避難場所の見直し
- 騒音で聞こえないので繰り返し放送して欲しい
- 野外拡声器で重要な情報を迅速に的確に流してほしい

(訓 練)

- 自治会で防災訓練をしたことがない(葉種畑)、市で避難訓練をしてほしい
- 幼稚園小学校でも津波の避難訓練を実施して頂きたい
- 職場が青岸地区なのでもっと防災訓練をして欲しい、避難勧告、指示がでたら避難するように会社に指示をきちんとして欲しい
- 自治会などで避難訓練をやったほうがよい
- 地震発生後どのくらいの時間で津波が来るのかと、津波の大きさによってどの地域にどのくらいの被害(浸水する可能性)があるのか、予想した詳しい情報がほしい
- 防災訓練あまりしていないような気がする

(そ の 他)

- 基本的には自助が大切、行政には頼るべきではない
- 至急の情報を望む
- 予想想定高以上の堤防の設置
- 行政がどれだけ津波等に対して用意があるかを開示、予算の増額や防波堤などの対応
- 高台に避難所の建設などより積極的な対応を
- 市の広報紙等で地震に対する意識改革を促す記事で啓蒙が必要
- 標高表示を増やし各自治会等と連携し地震に対する考え方を改める
- 市の防災計画が策定したらPRしてほしい
- 地震・津波に対する認識を新たにした
- 自治会のないところに必要な情報を伝えてほしい
- 家の耐震診断はどこで受ければいいのか、家具を固定したい
- 標高の入った津波ハザードマップを毎年各世帯に配布して欲しい
- 備蓄はされているのか、住金沖に高い防波堤がないのはなぜか、3階建て以上の高い建物がない場所では住民をみな収容できないのでは
- 近くの川にボートが放置されている、堤防を高く補強して欲しい
- 県・市の指示した堤防の立ち木を整理するのは間違い、流出物をとめるのに効果がある
- 友ヶ島を削れば和歌山市の津波の高さは半分になる
- 迅速な避難
- 堤防の見直し
- 川の清掃等
- 交通整理
- 高台確保
- 高齢者の足の確保
- 自治体の協力推進
- アンケートの結果を今後の市民の啓発等に役立ててほしい
- 土地が低いので大雨が降ると大変、津波が来ると家がなくなるのではないかと心配

- 自治体の連絡により伝えてほしいと思っているがうまく伝わるか心配
- 高齢者宅にはパソコンがないのでハザードマップが見られない
- ハザードマップを市民に配布するべきだ、市報が届いてないので市の災害に対する取り組みがわからない。和歌山に今回のような地震が起きた場合津波がどこまで来るのか調査して教えてほしい
- 避難場所等の見直した資料の配布をお願いする
- 対処地区において時々防災会議を開催してほしい
- ひとつごとではない
- 勧告が遅すぎる、大きな被害の心配がないにもかかわらず出しているような気がする
- 災害対策を万全に整えて欲しい
- 津波警報が和歌山のどの地域かわからなかった、もう少し詳しい情報が欲しい
- 津波対処等のマニュアル作りをお願いする
- 一人住まいなのでとても不安、パニックになり何もできない気がする
- 地震が来る確立や被害状況、準備することなどのマニュアルがあれば助かる
- 国や行政がもっとしっかりして欲しい
- これから隣人等と色々話し合いを持って助け合えればよいと思っている
- もっと具体的に徹底するとか啓発するようにやって欲しい
- 水軒川遊歩道工事に伴い川幅が狭められ水害の危険が高くなった、これについて どのように考えているのか
- 地震が起きてしまったからのことを色々考えていて欲しい
- 色々な方法で情報を早く伝達して欲しい
- 第二室戸台風で床下浸水した経験がある
- 紀三井寺団地はどのような被害を受けるか
- 自分なりに準備をしておかなければならないと思った
- 紀三井寺雇用促進住宅では防災に関する備えや取り組みをしてない、小さな単位から準備や意識付けをして欲しい
- マップはどこで手に入れればいいのか、学校は自宅より浜辺に近いのになぜ避難所なのかわからない
- 市報に地震対策方法などの情報を掲載して欲しい
- 子供やお年寄りまでわかるような言葉で防災についての説明を受けたい、何から準備していいのかわからない
- 民生委員の人が訪問してくれた
- これからは責任を持って準備したい
- 道が狭く家屋倒壊などで逃げ道がなくなるのではないかと不安、崩れそうなブロック塀もある
- 時宜に応じた広報をよろしく、拡声器の音がよく聞こえる、家族で防止について話し合う
- アンケート調査の実施により和歌山市でも意識が高まっていると思う
- 自治会の交流がない
- 新たなハザードマップ作成して欲しい、アンケート結果を役立てて欲しい
- 情報等の伝達方法を考えて欲しい
- 防波堤等の設置の検討

- 日頃の備えが大切
- 近辺の海拔マップが知りたい
- 津波ハザードマップではどこに避難していいのかわからなかった、津波とそうでない場合の避難場所をわかりやすく表示して欲しい
- 情報の伝達を早く
- レジャーボート危険
- ムーンブリッジに水門をより正確な予測情報を、むやみに警報を出すと”またか”という気持ちになる

- 当日、自宅に帰り近所の高齢者の方々に声をかけ和歌山工業高校へ避難しました。

案内された校舎へあがると講義室で段々の机、椅子が設置していました。津波なの高い所を案内されたと思うのですが、高齢者の方々は、横にもなれず、職員の説明で毛布、非常食等何も用意されておらず避難場所指定になっているにもかかわらず、食事は近所のコンビニで各自買うようにとの指示。情報もなく思わずラジオの(全員が聞ける)用意をお願いしました。高齢者の方々は固い椅子に座っているのが辛いと次第に帰り始めました。

私は、築港に近いのにあまりにも危機感のなさにびっくりしました。

市は、避難場所指定(和歌山工業高校)へ何か指導しているのか？

せめて、高齢者の方々の毛布一枚くらい用意できないのか不思議でした。

あげくのはて、夜10時頃までしか職員がいないため10時までしか開放しないとされました。

あわてて避難された方々は、毛布や非常食等もって来てなかった様です。

私達も小さい子供の手を引き毛布等もって避難できません。

(雑賀 女 40歳代)

- 海の近くに住んでいますので、今日の地震による津波の避難勧告には驚きました。

東北の被害は人ごとのように感じられず、テレビを見て涙があふれました。

やはり、子供のことも心配になり、学校などで離れていても、きちんと避難場所を決め、家族が集まれるようにしたいと思いました。地震による津波は正しい判断のもと、すばやい行動で被害をすくなくできると信じます。そのためには、まず、家族の中でできることに最善を尽くし次は、地域の取り組みが大事であると思います。近所づきあいが薄くなっている現代、日頃から地域のことに関心をもち、地域で協力しあっていけるようにしていくことも津波から身を守る手段のひとつであると思います。今回、このようなアンケートを送ってくださり、うれしく思いました。意識付けによいと思いました。(雑賀 女 30歳代)

- 私の地区の避難所は和歌浦小学校ですが途中で川があるので主人と秋葉山に避難すると話し合っています。

3月11日は片男波の健康会館で体操をしていました。15:20先生から地震があったらしいから早く帰るようにと、外に出ると拡声器で津波が来るから海に近づかないようにとっていました。

家に帰ってテレビをつけびっくりしてテレビを見ていて避難しませんでした。

(和歌浦 女 70歳代)

- 近所に南海地震を経験したお年寄りがおられます。彼女はその時に津波は明光あたりでチャプチャプしただけや、とか、和歌浦は入江(湾)になっているからそんなに大きな津波は来ないと言っています。しかし、今回の地震は、そんなお年寄りの思い込みが、避難を遅らせていたようであり、備えを怠ってはいけないなと思いました。(和歌浦 女 40歳代)

- 東北関東大地震の様に、津波が早いときの対応の迅速、市民全体の心得。
私はまず、自分一人で避難場所へ行く。若い人たちの人命の救助を最優先させてほしい、年寄りも、後でよい、老人の様に足腰の悪い人は最優先しなくてもよいとも思っています。
震災に合った後の復興に若い人たちの力が必要、思考も必要
県・市・地区合同の震災後すぐ、救援物資の手配、住宅に早く届く様にできる態勢を確立してあげてほしい物資届いても十分行き渡ってない。支援金等も速やかに届けて震災にあわれた方の一日も早い生活の出来るように考えてもらいたい。人々が足りない場合もあると思いますが今回でこれほどショックなことはありませんでした。我々みんなが常に何か出来ることを考えて生きていきたいと思っています。
(和歌浦 女性 70歳代)

- 地震津波の恐ろしさを始めてテレビで見て恐怖を感じました。和歌浦東は海岸に近く人ごとの様に思われませんでした。防災行政無線屋外拡声器などの聞こえ具合、テレビなどに頼るしかない
老人の私たちは危機管理防災課などの設置に心強く頼りにしています。どうぞよろしくお願いします。(和歌浦 女性 70歳代)

- 今回の震災で教訓にしたこと、自分の命は自分が守る、命があればとてあえず逃げる。そのために
長年手付かずで放置されていた高台の公園への入り口付近の雑草等を刈り取り住民が逃げやすいようにした。津波発生時は私どもの地区からは避難場所までは遠く間に合わないと思う、事態がおさまれば避難場所においていこうと思う。被災された皆様のお見舞い申し上げ一日も早く元の笑顔が戻りますよう祈っております。(和歌浦 女性 60歳代)

- 今回の東北地方太平洋沖地震では津波の恐ろしさを改めて知りました。避難所は小学校などが多いですが、高い建物に避難する方がベターな様に思います。和歌山は比較的建物の高いものが少なく、津波が来た時には、避難場所よりマンションの一番上などを考えます。行政の方には今でもそれなりに対策はとってこられていると思いますが、すべて見直して考えて頂きたいと思います。特に、交通網の遅れている部分など、ふだんから色々な情報も県民に市民にわかりやすく伝えるようにして頂きたいと思います。一例ですがフェニックス共済などそういったことも、地震保険にはあまりメリットがないように思うのでぜひ考えていただきたいです。これからのご活躍をぜひ期待しています。
(和歌浦 女性 50歳代)

- 子供が小さいので避難場所に行っても一ヶ所でののは困難に感じる。子供が幼稚園等で被災し、迎えに行っても自分の避難場所へ行っては時間的に難しい。自分お勤務先が自宅から遠いので帰って来れなかったとき、子供たちはどうしたらいいのかわからない。ハザードマップ等わかりやすい所にもっと掲示できないのか、具体的な避難方法、避難順路等を示して欲しい。(和歌浦 女性30歳代)

- 現在の避難場所は「浜宮小学校」になっていますが、地面が低く安全だとは思えない。以前(数年前)の大雨のときに道が浸水し外に出られなかった。主人が出かけなければならず車が水に浸りエンジンが破損、新車なのにショートエンジン交換をしました。友達のご主人の車も浸ったとのことでした。その時、近所の人の噂で？どこかにポンプを設置したからとりあえず家の前の道は水が浸ることはなくなるらしいと。数年前のことですが、何か置き去りになりがちなところかな？と思った。最近の地震のニュースを見ていて近所の人と夜～夜中だと助からないだろうと話していました。私たちは浜の宮小学校より高台「智弁学校」が安全かと思っています。これは家族間での思い出ですが！！今回の東北地方の津波を見ていると高台をしっかりと設置すべきだと思います。(名草 女性 50歳代)

- 常に防災への備えをしなくては・・・と思った。特に、住んでいる地区が河口に近くで不安だと思う(和歌川近く)もっと市や県が、防災に真剣に取り組んで欲しい。「のど元過ぎれば・・・」にならないで欲しい。自治体も個人ももっと真剣に財産！！命を守ることに前向きにならなくては・・・と思う、今回の大震災ができる限り早く復興復旧されますこと、心より願っています。(名草 女性 60歳代)

- 私は、第一に大津波にあったのは南海地震です。家2軒が目の前で倒れました。胸まで海水がきて母と手をしっかりと握り、小学校に避難したことを覚えています。足元に人が足をひっぱってきたが、自分と母の逃げるのがやっとの思いだった。その思いは60歳を超えても忘れることなく、また今回の震災で胸が痛い。あの怖い思い出がうかぶ。(名草 女性 60才代)

- 今回の東北地方太平洋沖地震は昼の時間帯だったのに大きな被害がありました。もし、私たちの和歌山市の場合、夜とか暗いときにおきたら、非常持ち出し袋も持ち出せないと思います。どうしたらよいかわかりません。運を天にまかせるしかないように思われます。(名草 女性 60歳代)

- 私は、北海道出身、小学校2年生の時に大津波に会い高い山へ逃げた、高学年の男子生徒に付き添われて山で一夜を過ごしました。やっぱり海辺の近くに住んでいると、いつ津波が来るかは怖い。でも50年たった現在は防波堤もかなり高く海までは遠いので少しは安心です、でも東北の地震でやっぱり一番先に北海道の親戚に電話確認し安心しました。太平洋沿岸はやっぱり怖い。いま住んでいる所は、津波は大丈夫だと思いますがやはり地震が怖い。(名草 女性 60歳代)

- 今回の東日本大地震をテレビで見ている、津波の大きな被害を知るたびに私の住んでいる地区は
海抜が低いので、避難所と思われる小学校に行っても助かるのかと不安になりました。
防災行政無線もはっきり聞こえていたらもっと避難なりできると思います。訓練もあればやりたいと思
います。準備しないといけないものなども市報などで教えていただけたらありがたいです。
(名草 女性 30歳代)
- 私の地区(宮前)では、(ダイエーまでの河川沿いに居住する家)川に沿ってオートバックス
の前を通過して国道もしくは塩屋方面に避難しなければならないが大津波を想定した場合裏側
からの避難路がないのでどうにもならない。東には(三田方面)高台もなく現在避難場所に困っ
ている。和歌浦湾には昔から大きな津波がこないのという世間一般の声を聞くことがあるのですが
非常に怖い話です。このようなことも避難しない理由の一つであるかもしれません。(私の場合片
男波の堤防の間際に住んでいましたので小さな津波ですが見たことがあります。また、台風の怖さ
も知っている、災害には敏感になっています。)
今回の大震災での現地状況を考えるにつけ避難する場所、移動手段等々非常にむずかしい判断にせ
まられます。(高齢者であっても元気な人は良いのですが、今までの「助け合いのルール」はもはや機
能させることができないのではないのでしょうか。(宮前 女性 70歳代)
- 東北で地震にあわれた片に早くお金を渡して欲しい。国及び県の行政は国民が最低限度の生活を
納税者に保障する義務があるにもかかわらず、いまだにほとんどお金を配っていないのはおかし
い。また、今こそ特別会計によりお金を支出して世界に誇れる防災都市を被災地区に作るべきであり、
また、同じ様な町や村になったら世界に対して恥である事を行政及び政治家は悟るべきである。
特別会計の15%でも約20兆円になるではないか。これを5年続ければ100兆円にもなり
まったく新しい未来に誇れる防災都市を高台に築くことができるのではないかと思う。
国の危機に当てるのが特別会計の本来の使い道ではないか。(名草 男性 50歳代)

第3章 分析の概要（問題点の抽出）

1 避難勧告の認知

関連質問

問1 避難勧告の認知度

避難勧告の認知度は77%であった、また、「知らない」市民も23%であった。

問3 避難勧告を知ったのは何時頃（発令午後4時13分）

避難認知時間も、「津波到達直前」「津波到達後」に認知した市民は17%であった。

問4 避難勧告を知った手段（媒体）は

避難勧告を知った手段は「防災行政無線」が約20%であった。

※ 東南海、南海、東海地震では発生から52分で津波が和歌山市に到達すると想定されている、したがって津波から避難するためにはなるべく早く避難勧告等を知ることが必要であり、また防災行政無線と併用し、各種媒体を利用して伝達する必要があり、伝達手段等を検討する必要がある。

2 避難勧告後の行動

関連質問

問5 地震発生後の行動（避難勧告後）の行動

避難した人14%、避難しなかった人86%

問6 避難したきっかけ（複数回答）

「避難勧告が出されたから」およびその他の要因で避難している。

※ 和歌山では震度を感じなかったため、避難勧告だけでは避難を開始する動機としては大きなものではなかったと推察される。

また、避難しなかった市民も86%であり、市民に対する知識の普及や啓蒙等が必要である。

3 避難後の行動

関連質問

問7 どこに避難しましたか

指定避難場所26%、指定避難場所以外74%

問9 避難の際に困ったこと

指定避難場所以外に避難した市民で、「避難場所が分からない」が28%

問10 避難先から帰宅した理由（複数回答）

指定避難所に避難した人では、「避難勧告が解除されたから」と回答した市民が1名、「津波の第一波が小さい」「もう津波が来ない」等自己判断の市民が多かった。

- ※ 避難場所及び避難場所への経路を知らない市民がおり、また、避難先からの帰宅に関しては、自己判断で帰宅した人、他人の行動により帰宅した人が多かった。
津波は一度だけではなく何度も来襲することなど、防災知識の普及等が必要である。

4 指定避難場所

関連質問

- 問 1 1 避難所で誰が避難所運営の職員かわかったか
判別できたと回答した市民は約 30%
- 問 1 2 避難所内に情報が得られる媒体はあったか
何もなかったと回答した市民は約 30%
- 問 1 4 避難所設備・運営の要望
情報媒体（テレビ・ラジオ）を要望する市民が約半数

- ※ 避難所に情報媒体の設置、職員の情報提供及び避難所運営委員の識別等、避難場所の設備運営について検討する必要がある。

5 避難しなかった市民に対する処置

関連質問

- 問 1 5 避難しなかった理由（複数回答）
「避難勧告を知らない」で避難しなかった人が全体の 20%であった。
また、「他地域の津波が大きくない」「和歌山には大きな津波が来ない」「周囲が誰も避難しない」などテレビ等からの情報を入手し、自己の判断や他人の行動による影響等の回答が多かった。
少数ではあるが、病弱者、ペットがいるために避難できなかったという回答もあった。

- ※ 市民に対する防災知識等の普及及び啓蒙について検討する必要がある。

6 津波に関する知識

関連質問

- 問 1 6 津波来襲予想時間
正しく理解している人は約 20%であった。
- 問 1 7 避難勧告と避難指示の違い
「避難勧告」「避難指示」の違いについて理解している市民は 44%であった。
- 問 1 8 ハザードマップを見たことあるか
ハザードマップを「見たことがない」「知らない」と回答した人が約 60%であった。
- 問 1 9 避難場所を知っているか
約 30%の市民が自分の避難場所を知らないと回答

※ 正しく認識することは、避難行動に重大な影響を及ぼすと考えられる。特に避難勧告と避難指示の緊急度を逆に認識していた場合には、避難行動の遅れにもつながりかねない。

また、ハザードマップは平成17年に全戸配布しているほか、和歌山市のホームページ等に掲載しているが認知度は低い。住んでいるところが津波等に対してどのような状態・環境にあるのかを理解すること、また避難場所を把握していることは、避難行動に重大な影響を及ぼす。市民への正しい知識の普及や周知の方法等を検討する必要がある。

7 防災活動

関連質問

問20 防災訓練に参加したことがあるか（複数回答）

参加したことあり193名（複数回答者を1として修正）

防災訓練に参加したことがある市民は約1/3、参加したことがない市民は約2/3であった。参加した市民の中では「職場の訓練」「自治会の訓練」に参加した市民が多い。

※ 訓練は、万が一の時に適切な行動をとるために重要である。自治会等の防災訓練を促進していく必要がある。

8 防災行政無線

関連質問

問23 防災行政無線の聞こえ具合

「天候等により聞こえない」と回答した市民は23%、「内容が聞き取れない」と回答した市民45%であった。

問24 どのような手段で伝達して欲しいか（複数回答）

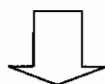
防災行政無線と回答した市民は65%、テレビ・ラジオなどが75%等であった。防災無線の充実を要望する市民が多く、さらに、テレビ等の報道またメールなど複数の手段での伝達を要望している。

※ 防災行政無線のほか多様な周知手段を検討する必要がある。

第4章 まとめ（問題点と今後の取り組み（概要））

- ① 避難勧告を知らなかった ⇒ **避難勧告伝達手段**
 - ・ 防災行政無線で認知した人 約20%
 - ・ テレビ・ラジオから認知した人 約50%
- ② 避難しなかった市民 ⇒ **正しい知識に基づかない自己判断**
 - ・ 避難しなかった人 86%
 - ・ 避難しなかった理由、「和歌山市には大きな津波が来ない」、「堤防がある」等自己判断で避難しなかった。
- ③ 指定避難場所へ避難した人 ⇒ **情報の提供・避難施設の居住環境**
 - ・ 情報収集媒体がない・市からの情報提供を希望
 - ・ 避難場所運営員の区別がつかない
- ④ 津波等に関する知識が不十分 ⇒ **知識の普及および啓蒙**
 - ・ 津波到達時間の認識80%が不十分
 - ・ ハザードマップを見たことがない60%
 - ・ 避難場所を知らない30%
- ⑤ 防災行政無線が聞こえにくい ⇒ **情報伝達手段の検討**
 - ・ 防災行政無線が聞こえにくい68%
 - ・ 防災行政無線のほか、テレビ・ラジオ等各種手段で伝達を希望

今後の取り組み



【自助】

- ★ 津波・地震に関する正しい知識の普及・啓蒙
 - ・ すぐに避難することが大切、自己判断の危険
 - ・ 想定外の津波が来る可能性がある
 - ・ 津波は第一波が最大だとは限らない

【共助】

- ★ 自主防災活動の育成強化
 - ・ 地域の自主的な防災活動・防災訓練が円滑な避難につながる
 - ・ 避難の際の声かけ、助け合い⇒地域リーダー養成

【公助】

- ★ 指定避難場所の環境の整備
- ★ 住民に対する情報の伝達・提供の方法等の検討

意識調査票（アンケート）

地震・津波に関する意識調査のお願い

平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震が発生し、地震動・津波により東北地方に大きな被害をもたらしました。和歌山市においても、近い将来、東海・東南海・南海地震の発生が危惧されています。

市ではこうした災害に備えて、市民の皆様の生命・財産を守るために「和歌山市地域防災計画」を策定しているところです。この計画については、状況の変化に対応するため毎年見直しをして、逐次修正を加えているところです。

今回、意識調査（アンケート）をおこない、市民の皆様のご意見を伺いながら、より実効性のある計画にしたいと考えています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

平成23年5月

和歌山市

【住民意識調査票（アンケート）へのご記入について】

- 調査票のご記入は原則として宛名人の方をお願いいたします。

（宛名人の方による回答が困難な場合には、同居のどなたかにご回答いただいても結構です）

- 質問の回答は、該当する選択肢の番号に直接○をつけてください。
- その他（ ）には具体的な内容をご記入ください。
- 回答の記入は、鉛筆、ボールペンなど、何を用いても構いません。
- ご記入された住民意識調査票は、同封した返信用封筒に入れ投函してください。
- まことに恐縮ですが、5月18日（水）までに投函されるようお願いいたします。
- 個人情報の利用にあたっては、その利用目的以外に使用しません。また、個人にかかわる情報が公表されることはありません。

【調査に関するお問合せは、下記までお願いいたします】

和歌山市役所 危機管理部 総合防災課

住民意識調査表（アンケート）

- 問1 3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により和歌山県に大津波警報が発表されました。この発表にともない和歌山市は午後4時13分避難勧告を発令しました。あなたは、避難勧告の発令を知っていましたか、あてはまる箇所に○をつけてください
- 1 知っていた（問2から回答してください）
 - 2 知らなかった（問5から回答してください）
- 問2 あなたは、避難勧告が発表された午後4時13分頃どこにいましたか、あてはまる箇所に○をつけてください
- 1 自宅の室内
 - 2 自宅の外
 - 3 外出先（海岸の近く）
 - 4 外出先（海岸から離れたところ）
 - 5 覚えていない
- 問3 避難勧告を知ったのは何時頃ですか、あてはまる箇所に○をつけてください
- 1 ~午後4時30分
 - 2 午後4時30分~午後4時45分頃
 - 3 午後4時46分~午後5時00分頃
 - 4 午後5時01分以降
- 問4 あなたが最初に避難勧告を知った媒体は何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください
- 1 テレビから
 - 2 ラジオから
 - 3 防災行政無線の屋外拡声器（スピーカー）から
 - 4 市の広報車から
 - 5 消防の人たちから
 - 6 家族や近所の人から
 - 7 町内会や自主防災組織の人から
 - 8 その他（ ）
- 問5 和歌山市が避難勧告を発令した後（または、大津波警報が発表された後）、あなたはどのような行動をとりましたか、あてはまる箇所に○をつけてください
- 1 避難勧告を知り津波からの被害を逃れるために避難した（問6から回答してください）
 - 2 避難勧告を知らなかったがテレビ等を見て避難した（問6から回答してください）
 - 3 避難勧告を知っていたが避難しなかった（問15から回答してください）
 - 4 避難勧告を知らなかったので避難しなかった（問15から回答してください）
- （問6から問14までは避難された市民の方が対象です）
- 問6 あなたが避難した理由またはきっかけは何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）
- 1 避難勧告が出されたから
 - 2 家が津波避難対象地域にあるから
 - 3 テレビで東北地方の津波の状況を見て
 - 4 周りの人が避難していた
 - 5 地域の方が声をかけてくれた
 - 6 消防職員が声をかけてくれた
 - 7 その他（ ）

問7 あなたが避難した場所はどこですか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 指定された避難場所
- 2 近くの津波避難ビル
- 3 近くの公共施設
- 4 近くの高台
- 5 親戚・知人の家
- 6 近くの高いビル
- 7 避難場所等には行かなかったが被害を逃れるために自宅から離れた
- 8 その他 ()

問8 あなたは避難所までどのような手段で移動しましたか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 徒歩
- 2 自転車
- 3 オートバイ
- 4 自分の車
- 5 他の人の車に乗せてもらった
- 6 その他 ()

問9 あなたが避難の際に困ったことは何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 避難場所がわからなかった
- 2 自分の体の調子が悪いので移動が大変だった
- 3 要援護者がいたので移動が大変だった
- 4 避難した場所が開いていなかった
- 5 避難場所の窓口（受付）がわかりにくかった
- 6 その他 ()

問10 あなたが避難先から帰宅した理由は何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 避難勧告が解除されたから
- 2 津波の第一波が小さくて大丈夫だと思ったから
- 3 もう津波は来ないと思ったから
- 4 他の人も帰りだしたから
- 5 家のほうが心配だったから
- 6 夕飯のため
- 7 避難場所が寒くなってきたから
- 8 病人・高齢者がいたから
- 9 その他 ()

問11 あなたは避難所で誰が避難所運営の職員（スタッフ）なのかわかりましたか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 見分けが付いた
- 2 なんとなく見分けが付いた
- 3 見分けが付かなかった

問12 避難所内に津波・地震などの情報が得られる媒体（手段）はありましたか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 携帯電話
- 4 職員からの情報
- 5 何もなかった
- 6 その他 ()

問 13 あなたが避難所へ持参したものは何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）

- 1 現金（財布）
- 2 携帯電話
- 3 保険証
- 4 預金通帳
- 5 印鑑
- 6 非常食
- 7 水
- 8 医薬品（常備薬）
- 9 下着
- 10 寝具（毛布・寝袋等）
- 11 ラジオ
- 12 その他（ ）

問 14 あなたは避難所の設備・運営で改善充実したほうがよいと思われたことは何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）

- 1 備蓄食料の充実
- 2 居住空間の快適性の確保
- 3 テレビ・ラジオ等の情報媒体の備え付け
- 4 寒さ・暑さ対策
- 5 運営スタッフの充実
- 6 市からの情報提供の充実
- 7 その他（ ）

（この質問は避難されなかった市民の方が対象です）

問 15 避難しなかった理由は何ですか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）

- 1 避難勧告が出ていることを知らなかった
- 2 他地域に到達した津波が大きくなかったので避難する必要がないと思った
- 3 津波が来ても自分の家の中にいれば大丈夫だと思った
- 4 和歌山市には大きな津波が来るとは思わなかった
- 5 堤防があるため津波が来ないと思った
- 6 家を離れられない用事・事情があった
- 7 避難の必要は感じたが（自分または家族の）心身の調子がよくないので避難しなかった
- 8 どこに避難していいかわからなかった
- 9 周囲の人が誰も避難しなかった
- 10 避難するのが面倒だった
- 11 外出等で避難する必要のないところにいた
- 12 その他（ ）

（ここからの質問は全員の方が対象です）

問 16 東海・東南海・南海地震が起きたとき、津波が来襲すると予想されています

地震の揺れの後、あなたのお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せると思いますか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 地震発生～30分
- 2 31分～45分
- 3 46分～60分
- 4 61分～75分

問 17 「避難勧告」は居住者に避難を促すもので強制するものではありません、また「避難指示」は避難勧告より拘束力が強くなり、より危険が切迫しているときに発せられます。

あなたは、「避難勧告」と「避難指示」の違いについて知っていましたか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

問18 あなたは居住地域の津波ハザードマップを見たことがありますか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 見たことがある
- 2 あることは知っているが見たことはない
- 3 あることも知らないし見たこともない

問19 あなたは避難場所がどこか知っていますか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 知っている
- 2 知らない

問20 あなたは防災訓練（津波避難訓練以外も含む）に参加したことがありますか、あてはまる箇所に○をつけてください（学校、職場、地域などの訓練含む 複数回答可）

- 1 県や市、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した
- 2 職場で行った防災訓練に参加した
- 3 自治会等が主催した防災訓練に参加した
- 4 その他の防災訓練に参加した
- 5 訓練には参加したことがない

問21 あなたはご家庭で大地震が起こった場合に備えて日頃から何か準備していることがありますか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）

- 1 地震が起きたとき避難する場所を決めている
- 2 家族の連絡方法を決めている
- 3 家族がばらばらになったときに落ち合う場所を決めている
- 4 家の耐震診断を受けている
- 5 家の耐震補強をしている
- 6 家具を固定している
- 7 非常持ち出し品を準備し、いつも持ち出せるようにしている
- 8 自宅には、地震後、家族が3日程度食べていけるだけの食料・飲料水を準備している
- 9 消火器や水を入れたバケツなどを用意している
- 10 風呂にいつも水を入れている
- 11 懐中電灯や携帯ラジオ等を準備している
- 12 自主防災組織の活動に参加している
- 13 その他（ ）

問22 今回の地震・津波をみて、今後ご家庭でどのように取り組もうと考えていますか、あてはまる箇所に○をつけてください（複数回答可）

- 1 地震が起きたとき避難する場所を決める
- 2 家族の連絡方法を決める
- 3 家族がばらばらになったときに落ち合う場所を決める
- 4 家の耐震診断を受ける
- 5 家の耐震補強をする
- 6 家具を固定する
- 7 非常持ち出し品を準備し、いつも持ち出せるようにする
- 8 自宅に、地震後、家族が3日程度食べていけるだけの食料・飲料水を準備する
- 9 消火器や水を入れたバケツなどを用意する
- 10 風呂にいつも水を入れておく
- 11 懐中電灯や携帯ラジオ、医薬品等を準備する
- 12 地震被害を補償する地震保険等に参加する
- 13 自治会・自主防災組織等の活動に参加する
- 14 その他（ ）

問23 あなたのお住まいからの防災行政無線屋外拡声器（スピーカー）の聞こえ具合についてお聞きします、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 ふだんから放送内容がはっきりと聞き取れる
- 2 よく聞こえるときもあるが、雨や風の具合で聞き取れないこともある
- 3 ふだんから放送の内容があまりよく聞き取れない
- 4 近くに防災行政無線の屋外拡声器（スピーカー）が設置されていない
- 5 その他（ ）

問24 あなたは、避難勧告、避難指示などの発表をどのような手段で伝達してほしいと思いますか。あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 防災行政無線の屋外拡声器（スピーカー）
- 2 テレビ
- 3 ラジオ
- 4 防災メール
- 5 その他（ ）

問25 東北地方太平洋沖地震では、テレビ・ラジオなどの媒体で地震や津波の被害状況が刻々と伝えられました。これを見聞きしてあなたはどのように感じられましたか、あてはまる箇所に○をつけてください

- 1 和歌山市にも予想を超えた大きな津波が来るかもしれないと思った
- 2 自分の住んでいる地域が津波浸水地域か確認しようと思った
- 3 避難所を確認しようと思った
- 4 防災訓練に参加しようと思った
- 5 特に何も思わなかった

問26 あなたの性別と年齢について、あてはまる箇所に○をつけてください
（性別）

- 1 男性
- 2 女性

（年齢）

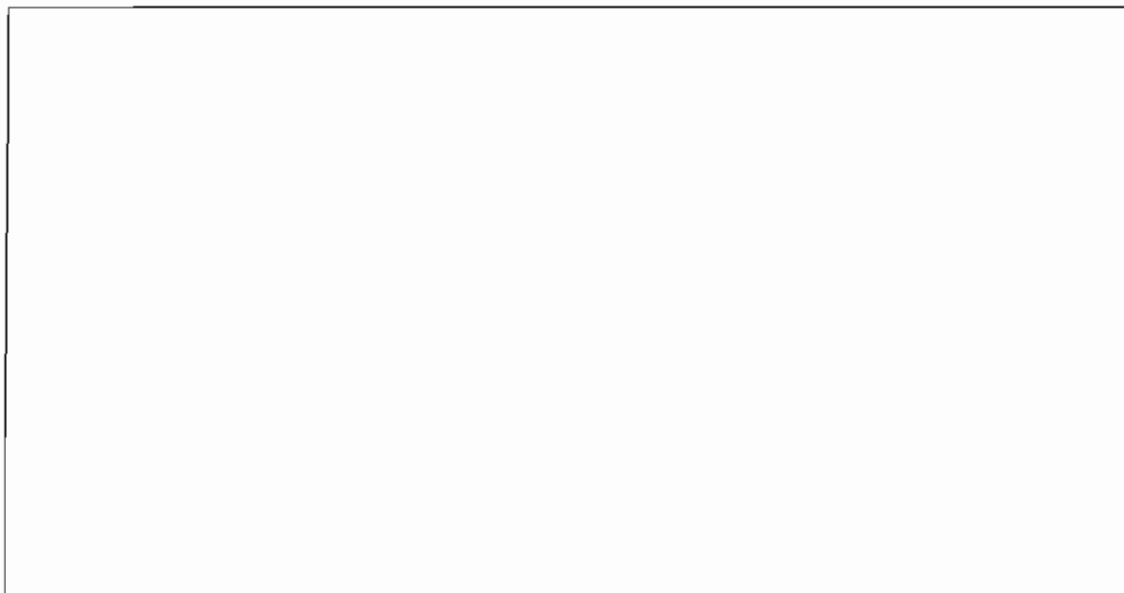
- 1 10歳代
- 2 20歳代
- 3 30歳代
- 4 40歳代
- 5 50歳代
- 6 60歳代
- 7 70歳代
- 8 80歳代以上

問27 あなたのお住まいの地区はどこですか、あてはまる箇所に○をつけてください。

- 1 雄湊地区（久保町4丁目、上町、網屋町、材木町、植松丁、西河岸町、加納町、北土佐丁）
- 2 砂山地区（船津町1丁目、船津町4丁目、築港1～5丁目、湊御殿1～3丁目、湊）
- 3 高松地区（宇須4丁目、塩屋1丁目、打越町）
- 4 宮前地区（小雑賀、中島）
- 5 湊地区（湊）
- 6 野崎地区（島橋東ノ町、島橋西ノ町、島橋南ノ町、島橋北ノ町）
- 7 貴志地区（土入）
- 8 雑賀地区（塩屋2～6丁目、西浜、西浜3丁目）
- 9 和歌浦地区（新和歌浦、和歌浦東1～4丁目、和歌浦中1～3丁目、和歌浦西1～2丁目、和歌浦南1～3丁目、和歌川町）
- 10 名草地区（内原、紀三井寺、布引、三葛、毛見）

問 28 自由意見

ご意見がございましたらご自由にお書きください



ご協力ありがとうございました。

※同封の返信用封筒に入れて5月18日（水）までに投函（返送）してください。